

第4次静岡市食育推進計画 (素案)

令和●年●月

静岡市

目 次

第1章 計画の基本的な考え方	1
1-1 計画策定の趣旨	2
1-2 食育に関する国の取組	2
1-3 計画の位置づけ	3
1-4 計画の期間	4
1-5 SDGs との関係	5
第2章 食をめぐる現状と課題	7
2-1 本市の特徴	8
(1) 地勢	8
(2) 人口と世帯	8
(3) 静岡市の恵み（オクシズ・しずまえ）	9
2-2 第3次静岡市食育推進計画の概要	10
(1) 計画の概要	10
(2) これまでの取組	10
2-3 食生活の現状	12
(1) 食育への関心（【12歳以上】「食育」に関心がありますか）	12
(2) 朝食の欠食（【12歳以上】普段、朝食を食べますか）	13
(3) 主食・主菜・副菜のそろった食事（【12歳以上】普段から食べているもの）	13
(4) 間食の摂取率（【12歳以上】あなたは間食をとりますか）	14
(5) 適正体重（【12歳以上】身長・体重を教えてください）	14
(6) 生活習慣病予防・改善の取組（【12歳以上】生活習慣病の予防や改善のために、 取り組んでいることはありますか）	15
(7) 食品の安全に関する知識（【12歳以上】日常生活に困らない位の食品の安全に関する 知識をもっていますか）	15
(8) ゆっくり噛んで味わって食べるなど食べ方への関心（【12歳以上】③食べ方に関心がある （よく噛む、味わう）	16
(9) 毎日1回以上共食する人（【12歳以上】1週間のうち朝食・夕食はどなたと一緒に食べる ことが多いですか）	16
(10) 食品ロス削減（【12歳以上】食品ロス削減のために何かしらの行動をしていますか）	17
(11) 市内農産物を意識して購入する割合（地産地消）（【18歳以上】市内農産物を意識して 購入しますか）	17

(12) 農林漁業体験（【12歳以上】農林漁業体験をしたことがありますか）	18
(13) 食文化の継承（【12歳以上】地域や家庭で受け継がれてきた伝統的な料理や作法等を継承し、伝えていますか。）	18
(14) 茶葉から入れた緑茶を飲む（【12歳以上】④茶葉からお茶を飲む）	19
2-4 第3次静岡市食育推進計画の目標と評価	20
2-5 静岡市の食を取り巻く社会情勢	21
(1) 新型コロナウイルス感染症の流行とライフスタイルの変化	21
(2) 「新たな日常」やデジタル化への対応	21
(3) 食に関する価値観や暮らしのあり方の多様化	21
(4) 食品ロスや環境問題	22
2-6 第3次静岡市食育推進計画の課題	23
(1) 栄養バランスへの配慮、規則正しい食生活の実施	23
(2) 若い世代の食に対する興味・関心の喚起	23
(3) 食の継承や地産地消、環境配慮などの持続可能性	23
(4) 「新たな日常」やデジタル化への対応	23
第3章 基本理念と計画の視点	25
3-1 基本理念	26
3-2 基本方針	26
(1) 誰もが生涯健康で心豊かな食生活の実現	26
(2) 若い世代が食を楽しみ、食の大切さを知る食育の推進	26
(3) 持続可能な食を支える環境の醸成	26
(4) 食育推進計画の体系	28
3-3 第4次食育推進計画の数値目標	30
第4章 食育施策の展開	31
4-1 ライフステージに応じた食育の推進	32
4-2 基本施策ごとの主な取組	34
基本施策(1) 栄養バランスに配慮した食生活の実践	34
基本施策(2) 適正体重や減塩等に配慮した食生活の実践	36
基本施策(3) 食品の安全・安心に関する知識の習得	38
基本施策(4) よく噛んで食べることや楽しく食べる経験を通じた食生活の推進	40
基本施策(5) 食育の普及啓発・情報発信	42
基本施策(6) 規則正しい食習慣の実践	44
基本施策(7) 環境に配慮した食生活の実践	48

基本施策（8）地産地消の推進.....	50
基本施策（9）農林漁業生産者と消費者との交流.....	52
基本施策（10）食文化の継承.....	54
4-3 第4次静岡市食育推進計画実施事業一覧	56

第5章 計画の推進体制と進行管理（素案については非掲載）

資料編（素案については非掲載）

第1章

計画の基本的な考え方

- 1-1 計画策定の趣旨
- 1-2 食育に関する国の取組
- 1-3 計画の位置づけ
- 1-4 計画の期間
- 1-5 SDGsとの関係

1-1 計画策定の趣旨

「食育」とは生きる上での基本であって、知育・徳育・体育の基礎となるものであり、様々な経験を通じて「食」に関する知識と「食」を選択する力を習得し、健全な食生活を実践することができる人間を育てることをいいます。

国は食育を総合的かつ計画的に推進するため、平成 17 年に食育基本法を制定し、これに基づき平成 18 年 3 月に食育推進基本計画を策定しました。その後は幾度かの改定を重ね、令和 3 年 3 月に第 4 次食育推進基本計画を策定、「生涯を通じた心身の健康を支える食育の推進」「持続可能な食を支える食育の推進」「『新たな日常』やデジタル化に対応した食育の推進」を重点項目に据え、わが国における食育の新たな方向性を示しています。

本市では、国の策定した食育推進基本計画の内容を踏まえながら食育を推進し、平成 30 年 3 月に策定した「第 3 次静岡市食育推進計画 食を通じて未来を育み、しずおかの「わ」を広げよう ～健康長寿のまちづくりを食から～」では、心豊かな人間性を育むとともに、更なる食育の推進を図ってきました。

近年では、少子高齢化の進行に伴い超高齢化社会を迎え、誰もが健康で長く活躍できる社会の実現が期待されるようになりました。一方、食に関する価値観やライフスタイルの多様化が進むにつれ、簡便な食事や不規則な食生活などに起因すると考えられる生活習慣病が増加するなど、解決すべき新たな課題が生じています。また、新型コロナウイルス感染症の蔓延防止策による身体活動等の大幅な制限、それに伴う心身への悪影響に加え、食の安全や食品ロスの問題など、食を取り巻く環境が大きく変化するとともに、食育への期待はますます高まっています。

本計画を通じて、市民の皆様一人ひとりが食に関する知識を身に付け、生涯を通じて心身ともに健康に過ごすとともに、豊かな人間性を育む社会の実現を目指します。

1-2 食育に関する国の取組

国では、「食育」によって「国民が生涯にわたって健全な心身を培い、豊かな人間性を育む」ことを目的として、2005 年（平成 17 年）7 月に食育基本法が施行されました。そして、食育に関する施策を総合的かつ計画的に推進するため、2006 年（平成 18 年）3 月に「食育推進基本計画」を策定しています。その後、5 年ごとに改正され、2021 年（令和 3 年）3 月に「第 4 次食育推進基本計画」を策定し、「生涯を通じた心身の健康を支える食育の推進」「持続可能な食の 3 つのわ（環境の環・人の輪・和食文化の和）を支える食育の推進」「『新たな日常』やデジタル化に対応した食育の推進」を新たな重点事項として位置づけています。

1-3 計画の位置づけ

本計画は、食育基本法第 18 条第 1 項目の規定に基づく市町村食育推進計画として、本市の食育に関する基本的な事項を定めるものです。

また、本計画は、国の「第 4 次食育推進基本計画（令和 3 年度～7 年度）」、静岡市の「第 4 次静岡市総合計画（令和 5 年度～令和 12 年度）」、静岡県の「ふじのくに食育推進計画」などに加え、「静岡市健康爛漫計画（第 3 次）」、「静岡市食の安全・安心アクションプラン」など関連計画との整合性を図り策定しました。



1-4 計画の期間

計画の期間は、令和6年度から令和12年度の7年間です。中間年には計画の進捗状況等を確認し、国や静岡県、静岡市の関連計画等との整合性を図るとともに、社会情勢等を踏まえながら適宜見直します。

	第4次静岡市 食育推進計画	食育推進基本計画	第4次静岡市 総合計画
令和3年度 (2021年度)			
令和4年度 (2022年度)			
令和5年度 (2023年度)		第4次 R3~R7	
令和6年度 (2024年度)	中間 評価		前期
令和7年度 (2025年度)			
令和8年度 (2026年度)			
令和9年度 (2027年度)		第5次 R8~R12	
令和10年度 (2028年度)			後期
令和11年度 (2029年度)			
令和12年度 (2030年度)			

1-5 SDGsとの関係

持続可能な開発目標（SDGs）とは、「誰一人取り残さない」持続可能な社会の実現に向けて、2015年（平成27年）9月に国連本部において採択された令和12年までの国際目標です。

17のゴール・169のターゲットから構成され、そのゴールの中には、健康的な生活の確保や食料安全保障及び栄養の改善なども含まれています。

本市においても、全庁をあげてSDGsの達成に寄与する考え方に基づき、計画を推進します。



第2章

食をめぐる現状と課題

2-1 本市の特徴

2-2 第3次静岡市食育推進計画の概要

2-3 食生活の現状

2-4 第3次静岡市食育推進計画の目標と評価

2-5 静岡市の食を取り巻く社会情勢

2-6 第3次静岡市食育推進計画の課題

2-1 本市の特徴

(1) 地勢

本市の市域は、南の駿河湾から、北は長野県や山梨県境の3,000メートル級の山々が連なる南アルプスに至り、約1,411平方キロメートルと広大な面積を有します。

市域の大部分は山間地が占めており、安倍川・藁科川・興津川等の清流の水源を有し、その流れは豊かな自然環境の中、駿河湾へと注がれています。年平均気温が17.2度という温暖な気候により四季折々の食べ物に恵まれ、古来からの食文化を受け継いできました。

東名高速道路・新東名高速道路・JR東海道本線・東海道新幹線が東西に走り、京浜・中京を結ぶ中間に位置することにより様々な食材が流通しています。

本市は、自然や物流等様々な面で恵まれており、こうした環境に対する感謝の念をはぐくみ、その特性を活かした食育を推進していきます。

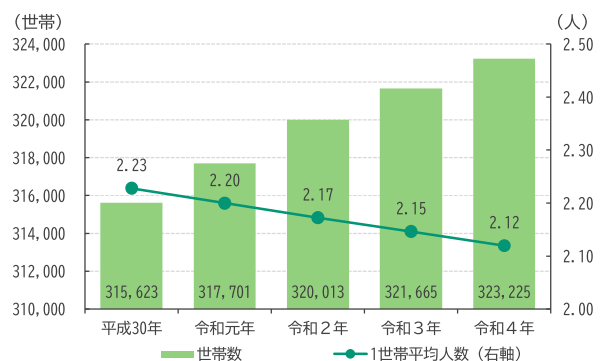
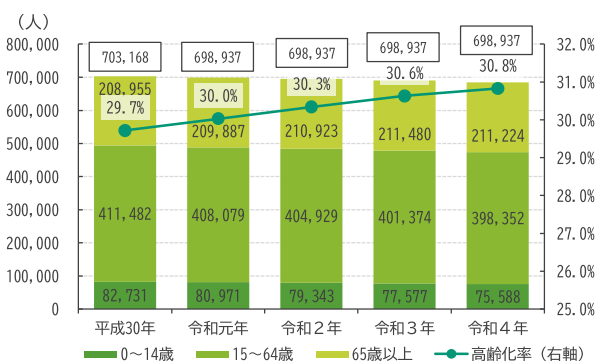
(2) 人口と世帯

本市の総人口は減少傾向にあり、令和4年には69万人を下回りました。

内訳をみると、0～64歳人口が減少しているのに対し、65歳以上人口（高齢者人口）が増加しています。また、世帯数が増加しているとともに1世帯平均人数が微減していることから、単身世帯が増加していると考えられます。

項目	平成30年	令和元年	令和2年	令和3年	令和4年
総人口（人）	703,168	698,937	695,195	690,431	685,164
0～14歳（人）	82,731	80,971	79,343	77,577	75,588
15～64歳（人）	411,482	408,079	404,929	401,374	398,352
65歳以上（人）	208,955	209,887	210,923	211,480	211,224
高齢化率（％）	29.7	30.0	30.3	30.6	30.8
世帯数（世帯）	315,623	317,701	320,013	321,665	323,225
1世帯平均人数（人）	2.23	2.20	2.17	2.15	2.12

資料：住民基本台帳（各年9月30日現在）



(3) 静岡市の恵み（オクシズ・しずまえ）

本市は恵まれた自然環境のもと、お茶やみかん、わさび、いちご、葉しょうが、トマト、枝豆といった様々な農産物が一年を通して豊富に作られています。

また、清水港や用宗漁港、由比漁港において、冷凍まぐろやあじ、さば、しらす、桜えび等の多くの水産物が水揚げされ、水産加工品も多く製造されています。

【オクシズとは？】

オクシズとは、静岡市の広大な市域面積の8割を占める中山間地域「奥静岡」を指す愛称です。

連なる山々からは豊かな水や食物が育まれ、産出される良質な木材とともに、都市の生活基盤を支えています。オクシズで、古くから守り伝えられてきた在来作物は、そば、じゃがいも、きゅうりやにんにくなど120種類もあります。

棚田や茶畑といった美しい景観が広がり、地域特有の風習や祭事などの伝統文化が今も残る、多くの魅力がある地域です。



【しずまえとは？】

「しずまえ」とは、静岡市の海沿いの地域（駿河区石部～清水区蒲原）のことを指す愛称です。

しずまえには、桜えびの水揚げ日本一の“由比漁港”、冷凍まぐろの水揚げ日本一の“清水港”、新鮮でおいしい、しらすが有名な“用宗漁港”の3つの港で水揚げされる魚を「しずまえ鮮魚」と呼んでいます。



2-2 第3次静岡市食育推進計画の概要

(1) 計画の概要

本計画は、食育基本法第18条第1項に基づく市町村食育推進計画です。静岡市が今後の食育推進の方向性などを定め、国や静岡県と連携しながら施策を分野横断的に推進するために策定しています。

第3次静岡市食育推進計画の概要は以下のとおりです。

【計画期間】

平成30年度～令和5年度

【基本理念】

食を通じて未来を育み、しずおかの「わ」を広げよう
～健康長寿のまちづくりを食から～

【基本方針】

- 基本方針1：若い世代を中心とした食育の推進
- 基本方針2：健康長寿世界一につながる食育の推進
- 基本方針3：「わ」（和・輪・環）の食育の推進

(2) これまでの取組

① 若い世代を中心とした食育の推進

健全な心身を培い、豊かな人間性を育むためには、生涯を通じた食育を推進していくことが重要です。しかし、10歳代後半から30歳代の若い世代は、進学や就職に伴い、生活環境の変化等から食生活が乱れ始め、朝食欠食や野菜不足などの食に関する課題が多くみられます。

若い世代から望ましい食生活を実践し、健康寿命75歳につなげることができるよう、主体的に取り組む食育推進事業を実施しました。

② 健康長寿世界一につながる食育の推進

社会環境や世帯構造などの変化により、食に関する価値観やライフスタイルも多様化し、どの世代においても栄養バランスの内容について、様々な課題を抱えています。

生活習慣病の発症・重症化を予防し、全ての年代において健やかで心豊かに生活できるよう、啓発資料の配布や各種教室・イベントの開催等を通じ、全ての市民が、健全で充実した食生活を送ることができるよう、食に関する知識の普及・啓発を行いました。

③ 「わ」(和・輪・環)の食育の推進

「和」 静岡市で受け継がれる和食

静岡市の山の恵み(オクシズ)、駿河湾の恵み(しずまえ)といった豊かな食文化を継承するために、イベントや食育ボランティアによる活動などを通して、次世代につなげていけるよう食育を推進してきました。

「輪」 食でつながる人々の輪

家族や友人等と食事をとりながらコミュニケーションを図る「共食(きょうしょく)」の機会を提供できる教室の開催や情報の提供等を行う食育を推進してきました。

「環」 食の循環や環境への配慮

食生活は自然の恩恵の上に成り立っていることから、食に対する感謝の念を深めることや、食品ロス削減に向けた料理教室等の体験活動を通して食育を推進してきました。



しずおかカラダに eat75 (健康づくり推進課)

2-3 食生活の現状

本計画の策定にあたり、令和4年に「健康・食育に関する意識・生活アンケート調査」を実施しました。

調査の概要は以下のとおりです。

調査種別：1～3歳調査（1,100人 保護者記入） 4～12歳調査（1,250人 保護者記入）
 12～19歳調査（2,000人 本人記入） 20～64歳調査（1,750人 本人記入）
 65～84歳調査（1,200人 本人記入）

調査地域：静岡市全域

調査対象：静岡市在住の男女

調査期間：令和4年7月4日～令和4年7月27日

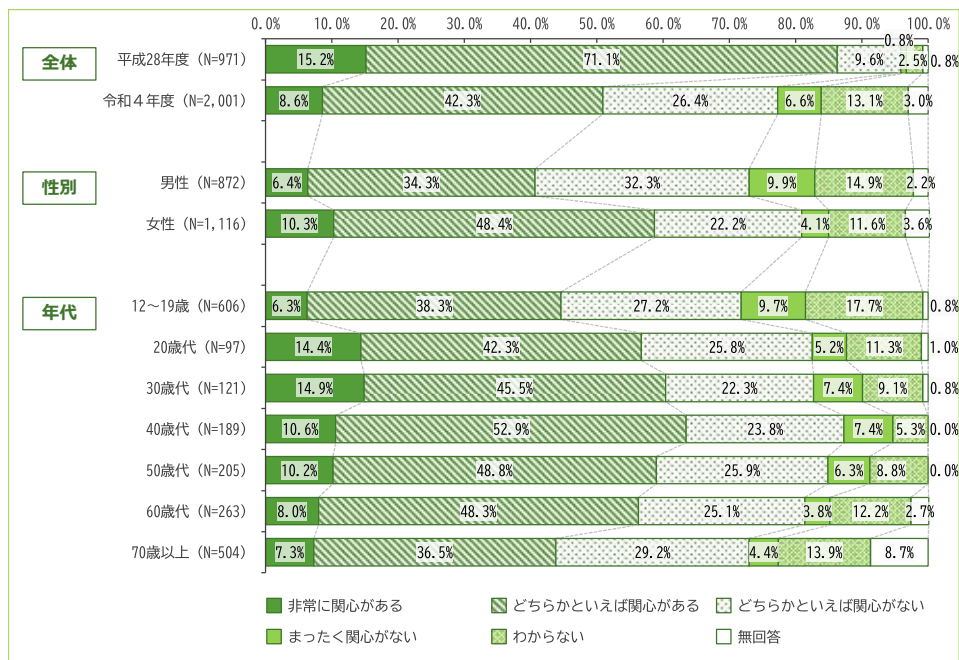
回収率：43.5%（3,175件回収）

（1）食育への関心（【12歳以上】「食育」に関心がありますか）

市民の食育への関心がある人は、前回に比べて大きく低下

食育への関心は、「非常に関心がある」と「どちらかといえば関心がある」を合わせた『関心がある傾向』が50.9%であり、平成28年度に比べて大きく低下しています。

年代別では、「非常に関心がある」が20歳代や30歳代で比較的高く、40歳代は『関心がある傾向』が他の年代と比べてやや高くなっています。

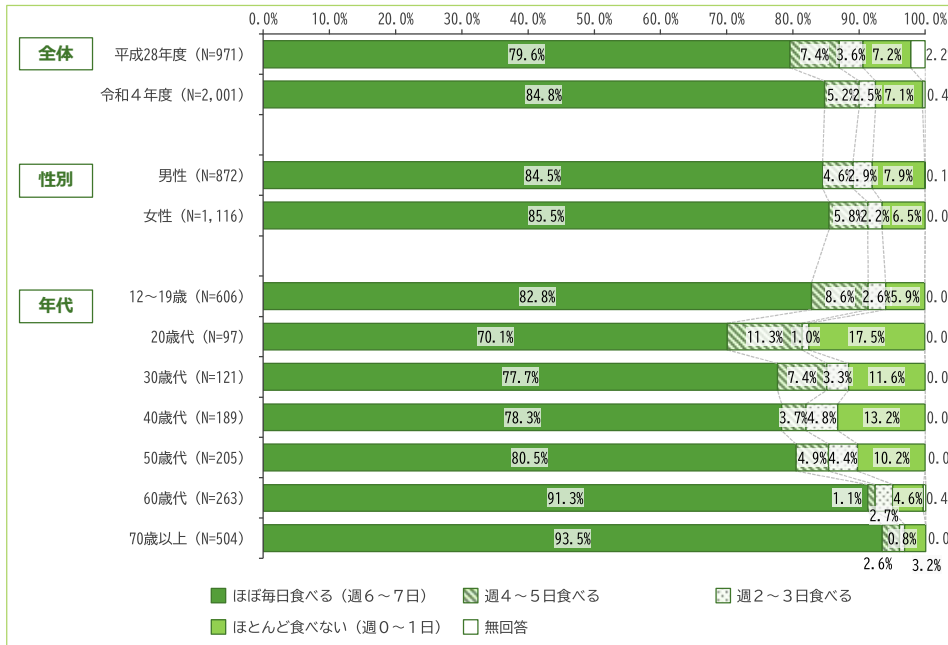


出典：令和4年度 健康・食育に関する意識・生活アンケート調査

(2) 朝食の欠食 ([12歳以上] 普段、朝食を食べますか)

朝食をほぼ毎日食べる人は、年代が上がるにつれて高まる傾向

朝食の摂取状況は、「ほぼ毎日食べる」が84.8%であり、平成28年度に比べてやや高くなりました。年代別では、20歳代が70.1%と低いものの、年代が上がるにつれて、ほぼ毎日食べる傾向にあります。

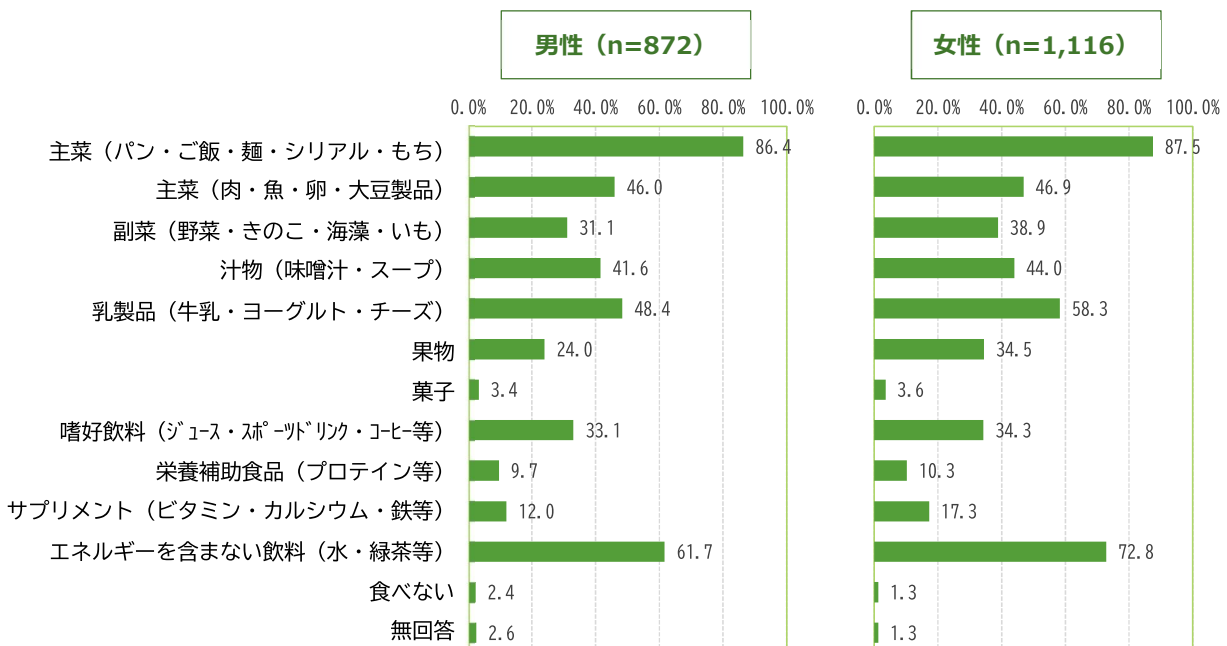


出典：令和4年度 健康・食育に関する意識・生活アンケート調査

(3) 主食・主菜・副菜のそろった食事 ([12歳以上] 普段から食べているもの)

朝食では、主菜、副菜の摂取が不足している傾向

普段から食べているもの（朝食）は、「主食（パン・ご飯・麺・シリアル・もち）」が最も高く、「エネルギーを含まない飲料（水・緑茶等）」が続いています。

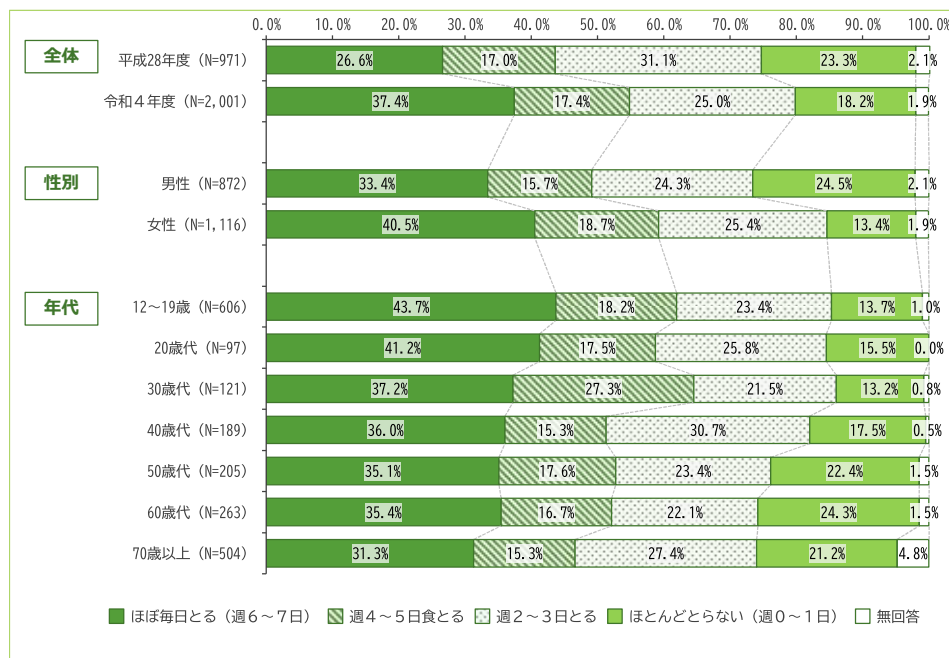


出典：令和4年度 健康・食育に関する意識・生活アンケート調査

(4) 間食の摂取率 ([12歳以上] あなたは間食をとりますか)

間食をほぼ毎日とる人は前回に比べて高まった

間食の摂取状況は、「ほぼ毎日とる(週6~7日)」が37.4%であり、平成28年度に比べて高くなっています。性別では男性に比べて女性の方が高いほか、年代が上がるにつれて、間食する頻度が低くなる傾向にあります。

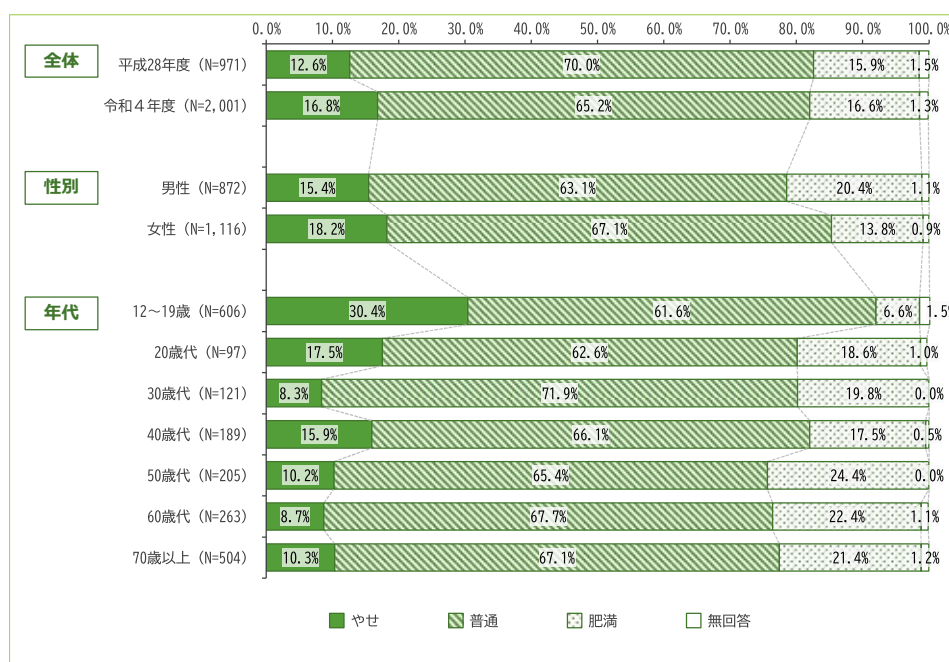


出典：令和4年度 健康・食育に関する意識・生活アンケート調査

(5) 適正体重 ([12歳以上] 身長・体重を教えてください)

女性や10歳代の「やせ」が高い傾向

「やせ」の割合は16.8%であり、平成28年度に比べてやや高くなっています。また、女性の「やせ」は男性に比べてやや高く、10歳代が他の年代に比べて高くなっています。



出典：令和4年度 健康・食育に関する意識・生活アンケート調査

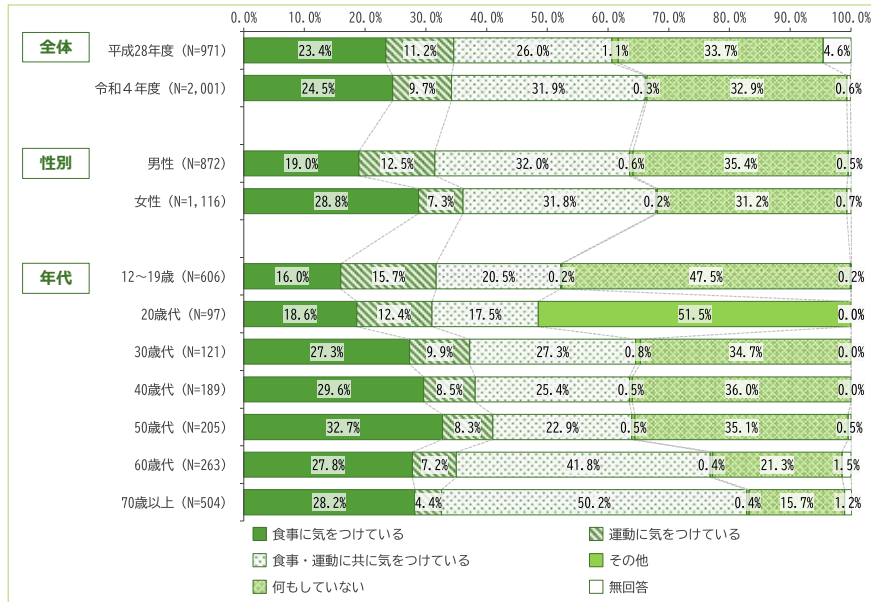
(6) 生活習慣病予防・改善の取組

〔12歳以上〕生活習慣病の予防や改善のために、取り組んでいることはありますか

生活習慣病予防・改善に取り組んでいる人は、年代が上がるにつれて高まる傾向

生活習慣病予防・改善の取組は、平成28年度に比べてやや高くなりました。男女別では、男性が運動に気をつけている傾向があり、女性は食事に気をつけている傾向があります。

また、年代が上がるにつれて、「食事・運動に共に気をつけている」が高くなっています。



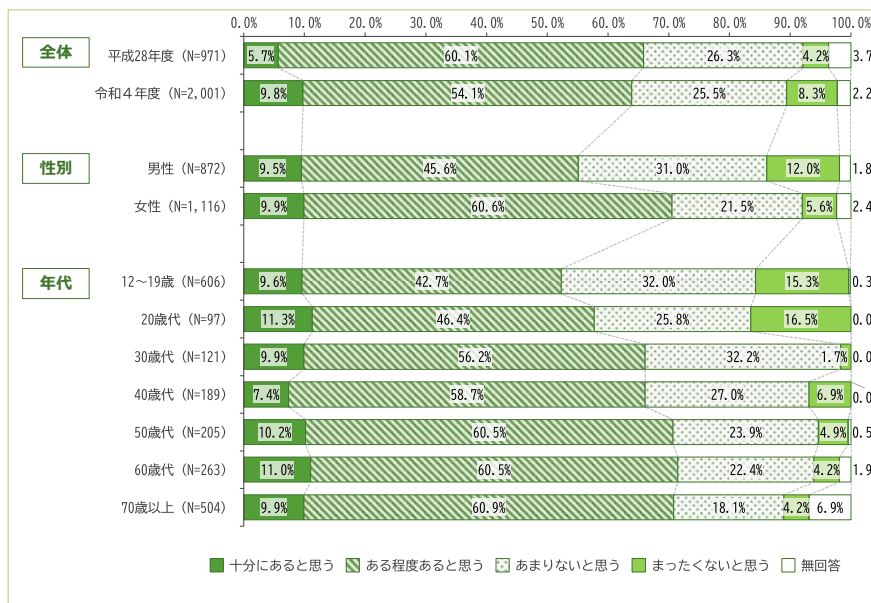
出典：令和4年度 健康・食育に関する意識・生活アンケート調査

(7) 食品の安全に関する知識

〔12歳以上〕日常生活に困らない位の食品の安全に関する知識をもっていますか

食品の安全に関する知識がある人は前回と同様の傾向

食品の安全に関する知識は、「十分にあると思う」と「ある程度あると思う」を合わせた『あると思う』が63.9%であり、平成28年度と同様の傾向となっています。



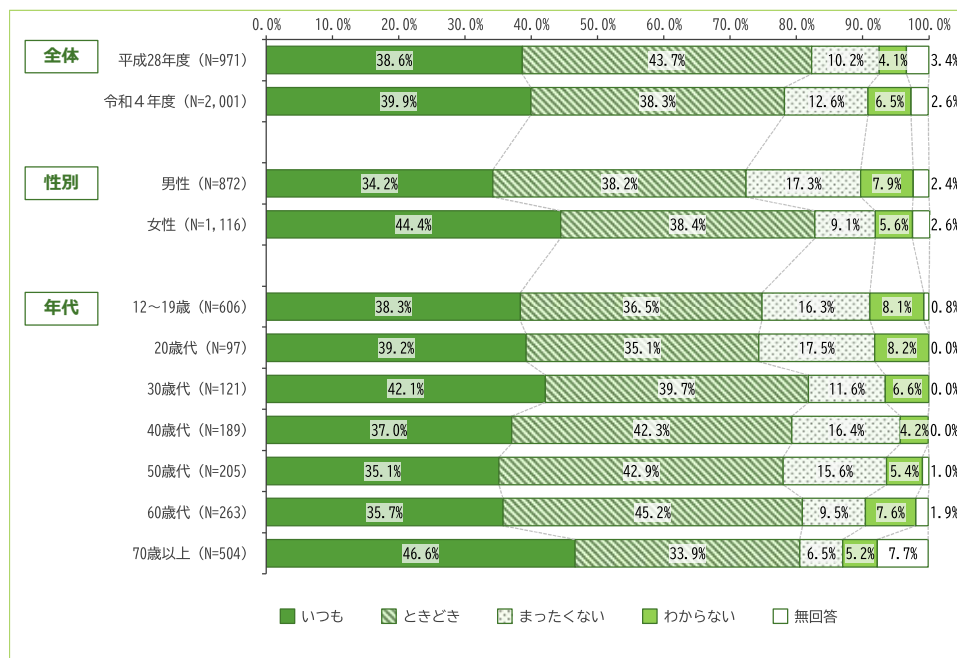
出典：令和4年度 健康・食育に関する意識・生活アンケート調査

(8) ゆっくり噛んで味わって食べるなど食べ方への関心

〔12歳以上〕③食べ方に関心がある（よく噛む、味わう）

食べ方に関心がある人は、前回と同様の傾向

食べ方に関心がある（よく噛む、味わう）人は、「いつも」と「ときどき」を合わせた割合が78.2%であり、平成28年度と同様の傾向となっています。

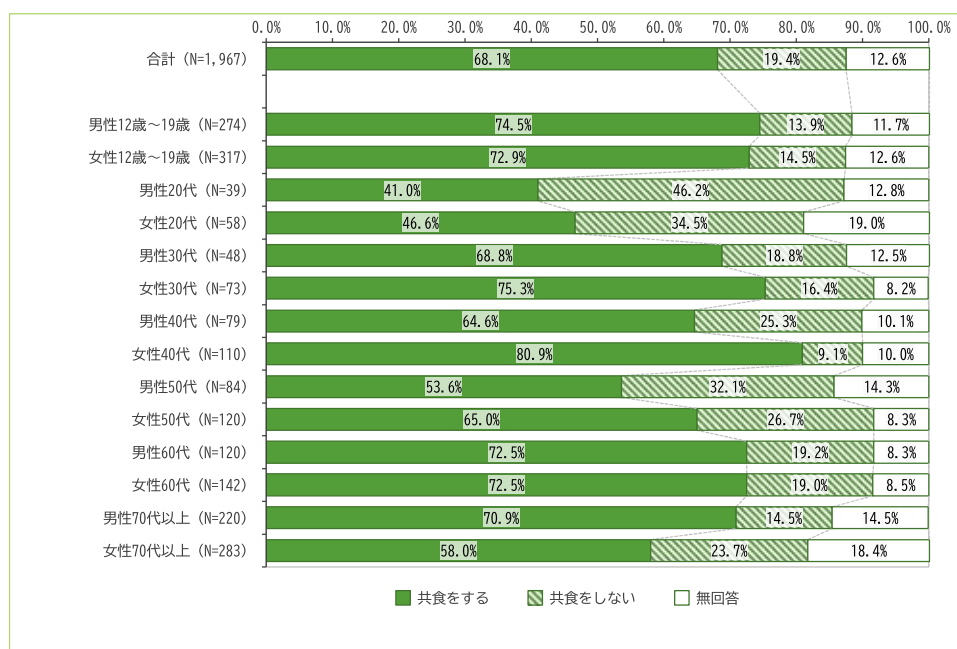


出典：令和4年度 健康・食育に関する意識・生活アンケート調査

(9) 毎日1回以上共食する人〔12歳以上〕1週間のうち朝食・夕食はどなたと食べる人が多いか

男女ともに20代は共食をする機会が少なくなる

概ね7割近くの人が毎日1回以上共食していますが、20代は男性が41.0%、女性が46.6%であり、共食をする機会が少なくなっています。

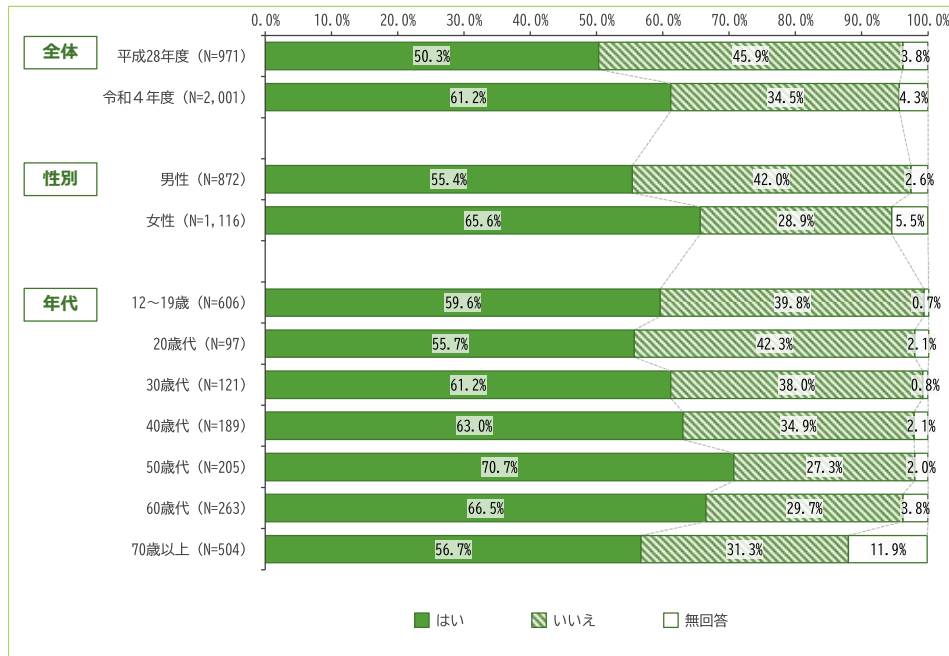


出典：令和4年度 健康・食育に関する意識・生活アンケート調査

(10) 食品ロス削減 (【12歳以上】食品ロス削減のために何かしらの行動をしていますか)

食品ロス削減に向けて行動している人は前回に比べて高まった

食品ロス削減のための行動有無は、「はい (行動している)」が61.2%であり、平成28年度に比べて高まりました。また、女性が男性に比べて高く、50歳代が他の年代に比べてやや高い傾向となっています。



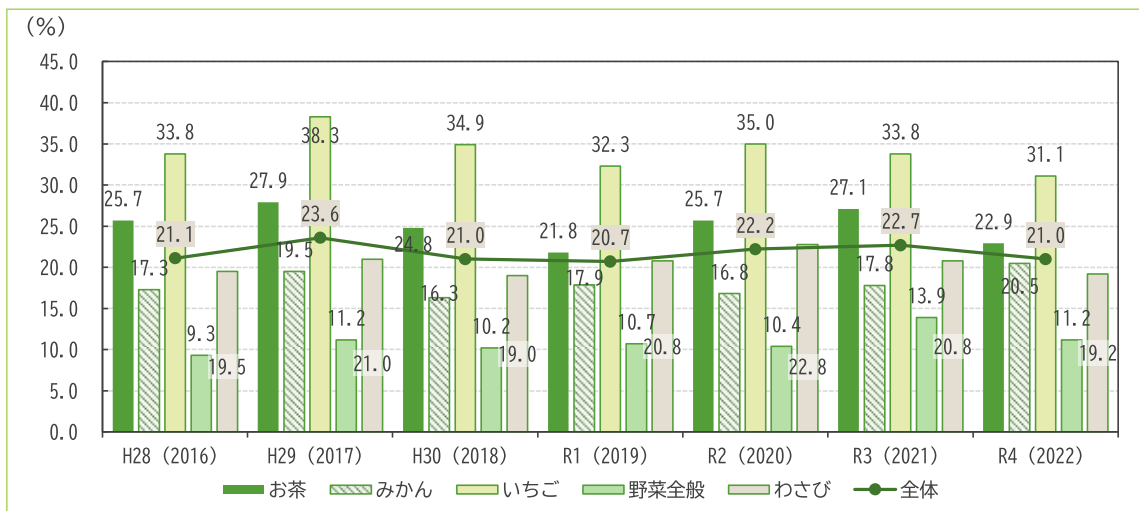
出典：令和4年度 健康・食育に関する意識・生活アンケート調査

(11) 市内農産物を意識して購入する割合 (地産地消)

(【18歳以上】市内農産物を意識して購入しますか)

地産地消の実践は、ほぼ横ばいで推移

市内農産物を意識して購入する割合は、ほぼ横ばいで推移しています。

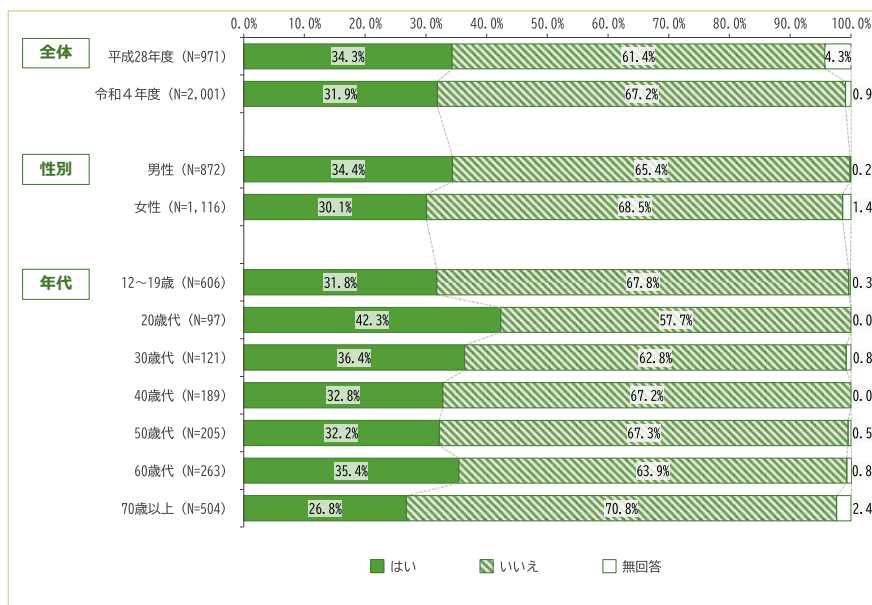


出典：令和4年度 静岡市農業振興計画「静岡市産農産物に関するアンケート調査」

(12) 農林漁業体験（【12歳以上】農林漁業体験をしたことがありますか）

農林漁業体験をしたことがある人は前回に比べて微減

農林漁業体験の有無は、「はい（したことがある）」が31.9%であり、平成28年度に比べてやや減少しました。また、男性が女性に比べてやや高く、20歳代が他の年代に比べてやや高い傾向となっています。



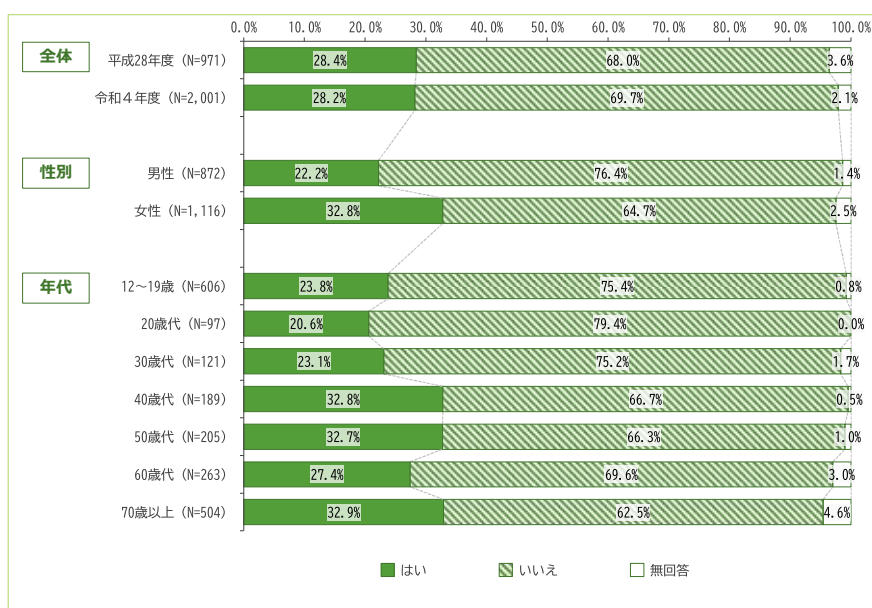
出典：令和4年度 健康・食育に関する意識・生活アンケート調査

(13) 食文化の継承

（【12歳以上】地域や家庭で受け継がれてきた伝統的な料理や作法等を継承し、伝えていますか。）

食文化を継承している人は前回と同様の傾向

伝統的な料理等の継承は、「はい（伝えている）」が28.2%であり、平成28年度と同様の傾向となっています。

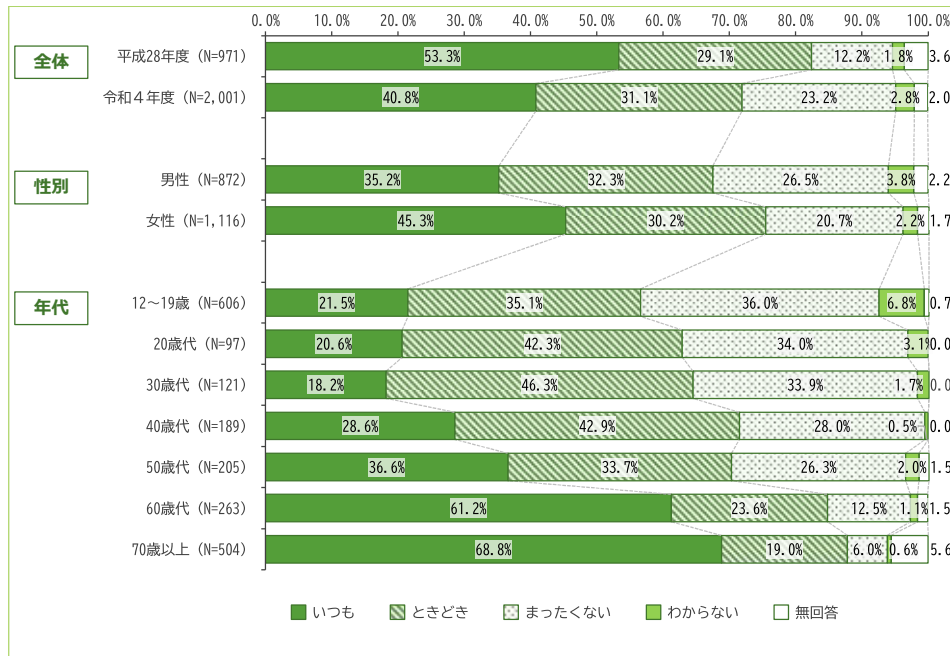


出典：令和4年度 健康・食育に関する意識・生活アンケート調査

(14) 茶葉から入れた緑茶を飲む〔12歳以上〕④茶葉から入れた緑茶を飲む

茶葉からお茶を入れて飲む人は、前回に比べて減少傾向

茶葉からお茶を入れて飲む人は、「いつも」と「ときどき」を合わせた割合が71.9%であり、平成28年度に比べてやや減少しました。また、女性が男性に比べていつも飲んでいる割合が高く、年代が上がるにつれて高くなる傾向にあります。



出典：令和4年度 健康・食育に関する意識・生活アンケート調査

2-4 第3次静岡市食育推進計画の目標と評価

具体的な目標値		現状値 (H28)	目標値 (R5)	現状値 (R4)	評価(※)
1. 食育に関心を持つ若い世代(20~30歳代)の割合		78.7%	85%以上	58.7%	D
2. 朝食を欠食する若い世代の割合	20歳代	43.4%	35%以下	29.9%	A
	30歳代	29.7%	25%以下	22.3%	A
3. 情報を得るために行動をする若い世代(20~30歳代)の割合		—	80%以上	46.3%	—
4. 女性(20歳代)のやせ(低体重)の割合		30.4%	20%以下	24.1%	B
5. 主食・主菜・副菜を組み合わせた食事を1日2回以上ほぼ毎日食べている若い世代(20~30歳代)の割合		43.2%※	55%以上	34.9%	D ※目標値と比較して評価
6. 主食・主菜・副菜を組み合わせた食事を1日2回以上ほぼ毎日食べている市民(中学生~84歳)の割合		57.7%※	70%以上	49.3%	D ※目標値と比較して評価
7. 生活習慣病予防や改善のために、適切な食事や定期的な運動を継続して実施している市民(中学生~84歳)の割合		60.6%	65%以上	66.1%	A
8. 食品の安全性について基礎的知識を持つ市民(中学生~84歳)の割合		65.8%	70%以上	63.9%	C
9. ゆっくり噛んで味わって食べるなど食べ方に関心のある市民(中学生~84歳)の割合		38.6%	45%以上	39.9%	C
10. 定期的に歯科健診を受診している市民(中学生~84歳)の割合		52.8%	60%以上	57.5%	B
11. 毎日1回以上家族や友人等と一緒に食事をする市民(中学生~84歳)の割合		81.0%	85%以上	66.8%	D
12. 食品ロス削減のために行動している市民(中学生~84歳)の割合		50.3%	55%以上	61.2%	A
13. 地元(静岡市)で生産された物を日頃から購入するようにしている市民(18歳以上)の割合		23.6%	30%以上	21.0%	D
14. 農林漁業体験をしたことがある市民(中学生~84歳)の割合		34.3%	40%以上	31.9%	D
15. 地域や家庭で受け継がれた伝統的な料理や作法などを継承している市民(中学生~84歳)の割合		28.4%	35%以上	28.2%	C
16. 茶葉から入れた緑茶を飲む市民(中学生~84歳)の割合		53.3%	60%以上	40.8%	D

※農林水産省(H27は内閣府)「食育に関する意識調査」より

○評価の基準は以下のとおりです。

評価	基準
A	目標に達成した
B	目標は達成していないが、改善傾向にある
C	変わらない(±5%以内の場合)
D	悪化している
—	平成28年の現状値なし

2-5 静岡市の食を取り巻く社会情勢

(1) 新型コロナウイルス感染症の流行とライフスタイルの変化

2019年（令和元年）に発生が確認された新型コロナウイルス感染症は、世界中で多くの感染者や死者を出す事態を引き起こしました。わが国では、2020年（令和2年）4月に緊急事態宣言を発出し、「感染防止の徹底」、「外出自粛要請」、「時差出勤」、「テレワークの活用促進」といった措置が矢継ぎ早に講じられ、これにより、人々の行動・意識・生活様式・価値観等が大きく変化しました。また、在宅時間や家族で食を考える機会が増えたことで、家庭での食育の重要性が高まるなど、食を見つめ直す契機にもなりました。

(2) 「新たな日常」やデジタル化への対応

新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、身体的距離の確保や3密（換気の悪い密閉空間・多数が集まる密集場所・間近で会話や発声をする密接場面）の回避が迫られたことで、デジタル技術の活用は喫緊の課題となりました。その一方、生活を支える多くの分野でICT（情報通信技術）やAI（人工知能）の活用等デジタル技術は日々進展を遂げており、加速度的に普及が進んでいます。2021年（令和3年）には、国が第4次食育推進基本計画を策定し、その中で、横断的な重点事項として「デジタル技術を活用した食育の推進」等が位置づけられるようになりました。このように、「新たな日常」やデジタル化への対応の重要性は一層増してきています。

(3) 食に関する価値観や暮らしのあり方の多様化

在住外国人の増加とともに訪日外国人の増加によって、食の多様性に対する認識が広がりをみせています。現在は、新型コロナウイルス感染症による影響により途絶された人々の交流に復調の兆しが見えつつあり、今後は、宗教・人種・信条・身体的特性など様々な背景を有する多様性に富んだ方々との交流・共生する機会の増加が予想されます。そのような方々と同じ食卓を囲み、食事を楽しむことができるよう、理解や知識を深めていくことが求められるようになっていきます。

また、少子高齢化の進行、女性の社会進出の促進、人生100年時代を見据えた社会制度の変容、単身世帯の増加など、社会のあり方が大きく変わりつつあります。それに伴い、地域コミュニティが希薄化し、地域で受け継がれてきた食に関する情報や知識の伝承が困難になりつつあるといった課題が顕在化しています。

2-6 第3次静岡市食育推進計画の課題

第3次計画の現状と評価に加え、国の食育推進の方向性を踏まえ、以下の項目が今後の課題と考えます。

(1) 栄養バランスへの配慮、規則正しい食生活の実施

朝食において栄養バランスのとれた食事をとることが難しく、特に「主菜・副菜」が不足している。また夕食では、「主食」を控える高齢者が増加している。また間食の摂取も増加傾向である。また、年代の変化に伴うやせ・肥満の割合の増加がみられ、ライフステージやライフスタイル、多様な暮らしに対応し、生涯を通じた食育を推進することが重要である。

さらに、食品を適切に選択し、安心して食生活を送ることができる知識を持つ市民を増やしていく。

(2) 若い世代の食に対する興味・関心の喚起

若い世代は、食に関する知識や意識、実践面において、他の世代と比べると課題が多い。

次世代へつなげていく食育を推進するために、若い世代が中心となり、食に関する情報発信や健全な食生活の実践につなげていくことが重要である。

(3) 食の継承や地産地消、環境配慮などの持続可能性

食品ロス削減への取組については関心が高まっているが、環境に配慮した食生活の普及・啓発については、より一層、推進していく必要がある。

また、生産から消費に至るまでの食の循環を意識し、生産者と消費者の交流や体験活動を通して、地産地消への取組を強化していく。

食育ボランティア人材を増やして、地域に根ざした食育活動により、しずおかの食文化の継承につなげていく。

(4) 「新たな日常」やデジタル化への対応

オンライン食育教室やインターネットによるイベント開催や動画配信など、いつでも手軽に食に関する情報を取得できるような取組を増やしていく。

第3章

基本理念と計画の視点

3-1 基本理念

3-2 基本方針

3-3 第4次静岡市食育推進計画の数値目標

3-1 基本理念

食で「しずおかのつながり」を深め、未来の健康を育もう ～みんなでおいしく食べて、元気あふれるまちづくり～

静岡のおいしい食材を中心に、それぞれが楽しみながら味わい、健全な食生活とともに食を大切にす、心豊かな人間性を育むことを目指します。

3-2 基本方針

(1) 誰もが生涯健康で心豊かな食生活の実現

生活習慣病や低栄養予防に向け、栄養バランスの整った食事や減塩、野菜・果物の摂取等の実践を目的に、各年代にあった食の取組を行います。

自然に健康になれる食環境づくりを推進します。

(2) 若い世代が食を楽しみ、食の大切さを知る食育の推進

若い世代が抱える食に関する課題（栄養バランス・野菜不足・共食・女性のやせ等）は、他の年代と比べると多い傾向にあります。

静岡市の未来を担う若い世代が中心となり、健全な食生活等を次世代へ継承していけるよう取り組めます。

(3) 持続可能な食を支える環境の醸成

環境に配慮した食生活の実践（食品ロス削減・エシカル消費など）や農林漁業体験等により生産者と消費者との交流を通じて、食べ物や環境を大切に思う気持ちを育むことを目指します。

地域に根ざした食育ボランティアと連携し、行事食・郷土食などの継承や、学校給食における地場産物の活用や啓発等、促進していきます。

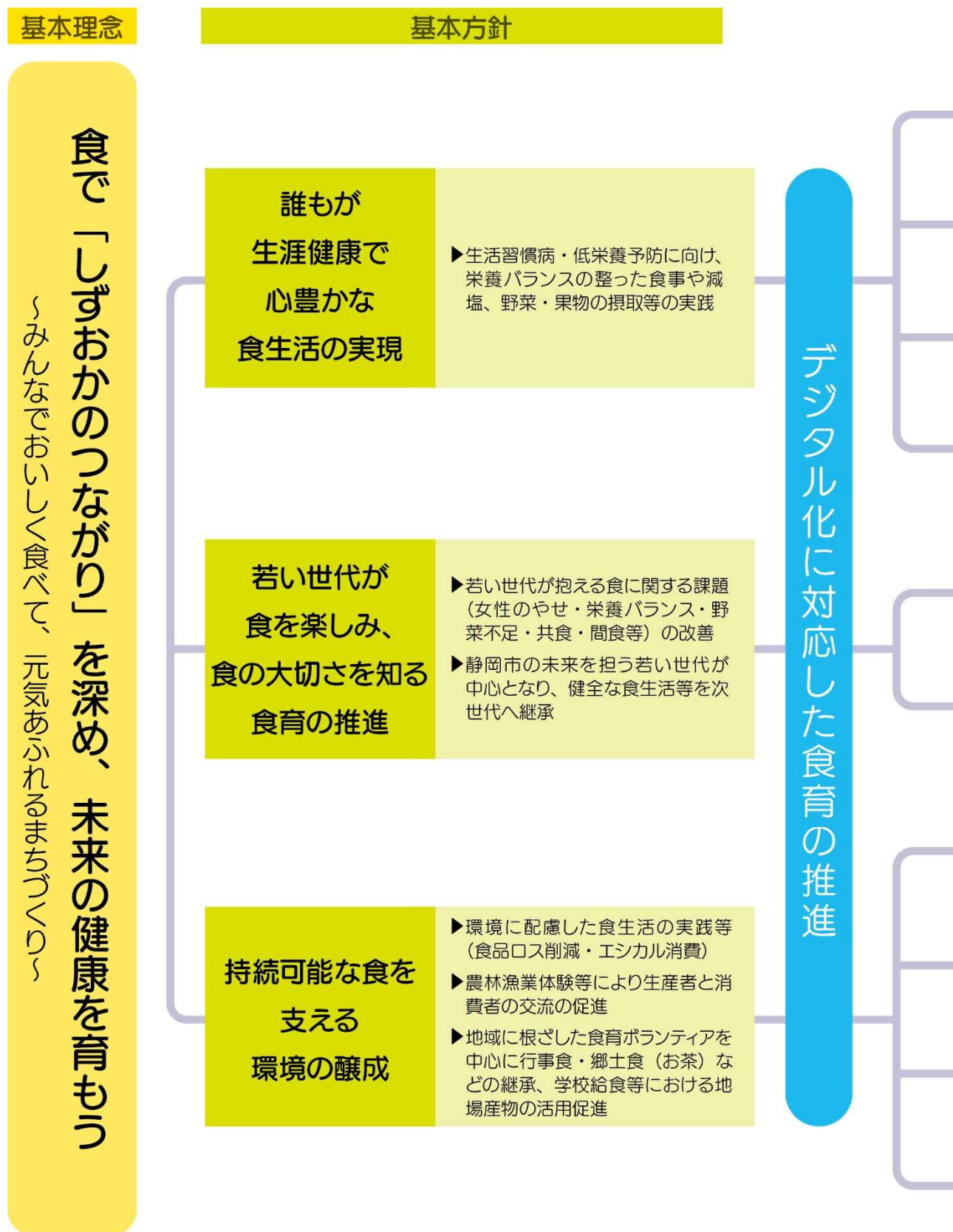
食育ピクトグラム

農林水産省は、食育の取組を子どもから大人まで誰にでもわかりやすく発信するため、表現を単純化した絵文字であるピクトグラム等を作成し、ホームページにて公表するなど、普及を進めています。

ピクトグラムは、「食育推進基本計画の1次から3次まで目標に掲げられていて、第4次食育推進基本計画でも重点事項に取り上げられている、普遍的に取り組むべき項目から選択しています。また、食生活指針も参考にしています。」とされており、本計画でもピクトグラムを活用することで、わかりやすさや親しみやすさに配慮しています。

<p>1 みんなで楽しく 食べよう</p> 	<p>家族や仲間と、会話を楽しみながら食べる食事で、心も体も元気にならしましょう。</p>	<p>2 朝ごはんを 食べよう</p> 	<p>朝食を食べて生活リズムを整え、健康的な生活習慣につなげましょう。</p>
<p>3 バランスよく 食べよう</p> 	<p>主食・主菜・副菜を組み合わせた食事で、バランスの良い食生活につなげましょう。また、減塩や野菜・果物摂取にも努めましょう。</p>	<p>4 取りすぎない やせすぎない</p> 	<p>適正体重の維持や減塩に努めて、生活習慣病を予防しましょう。</p>
<p>5 よくかんで 食べよう</p> 	<p>口腔機能が十分に発達し維持されることが重要ですので、よくかんでおいしく安全に食べましょう。</p>	<p>6 手を洗おう</p> 	<p>食品の安全性等についての基礎的な知識をもち、自ら判断し、行動する力を養いましょう。</p>
<p>7 災害に そなえよう</p> 	<p>いつ起こるかも知れない災害を意識し、非常時のための食料品を備蓄しておきましょう。</p>	<p>8 食べ残しを なくそう</p> 	<p>SDGs の目標である持続可能な社会を達成するため、環境に配慮した農林水産物・食品を購入したり、食品ロスの削減を進めたりしましょう。</p>
<p>9 産地を 応援しよう</p> 	<p>地域でとれた農林水産物や被災地食品等を消費することで、食を支える農林水産業や地域経済の活性化、環境負荷の低減につなげましょう。</p>	<p>10 食・農の 体験をしよう</p> 	<p>農林漁業を体験して、食や農林水産業への理解を深めましょう。</p>
<p>11 和食文化を 伝えよう</p> 	<p>地域の郷土料理や伝統料理等の食文化を大切にして、次の世代への継承を図りましょう。</p>	<p>12 食育を 推進しよう</p> 	<p>生涯にわたって心も身体も健康で、質の高い生活を送るために「食」について考え、食育の取組を推進しましょう。</p>

(4) 食育推進計画の体系



基本施策	(仮)主な取組
(1) 栄養バランスに配慮した食生活の実践	あそび・子育ておしゃべりサロン / ヘルシー食 de ブランディング飲食関係者向け専用講座 / 元気で長生き栄養講座
(2) 適正体重や減塩等に配慮した食生活の実践	食生活サポート講座 / 生活習慣病予防教室 / 食に関する指導
(3) 食品の安全・安心に関する知識の習得	食の安全教室 / 栄養成分表示促進事業 / 「静岡食協ニュース」の編集、発行（年4回）
(4) よく噛んで食べることや楽しく食べる経験を通じた食生活の推進	食に関する指導 / 歯周病検診 / 歯みがきスタート教室 / おやこ食育教室
(5) 食育の普及啓発・情報発信	公立こども園における食育推進事業 / 食に関する情報発信 / 食の安全・安心 HP「たべしずねっと」 / しずまえ新聞の発行
(6) 規則正しい食習慣の実践	しずおかカラダに eat75 / 食に関する指導 / 栄養素について学ぶ
(7) 環境に配慮した食生活の実践	食品ロス削減対策事業 / スマートフッキング / エシカル消費と家庭の食事
(8) 地産地消の推進	地場産物を取り入れた献立の提供 / 静岡市認定農業者協会「春の市・秋の市・冬の市」 / 地元の海産物（しらすをメインに食べてみよう）
(9) 農林漁業生産者と消費者との交流	生消費言倶楽部 / アグリチャレンジパーク蒲原活用事業 / しずまえ漁業見学ツアー
(10) 食文化の継承	食育応援団 / お茶の美味しい入れ方教室 / ライフステージに応じた各種食育推進講座 / 食育ボランティア人材養成講座

3-3 第4次食育推進計画の数値目標

【作成中】

※学校給食関係の目標については検討中

No.	具体的な目標値	対象	現状値※1 (令和4年度)	目標値 (令和12年度)
1	食育に関心を持つ若い世代の割合	20～30 歳代	58.7%	85%以上
2	食に関する情報を得るために行動をする若い世代の割合	20～30 歳代	46.3%	80%以上
3	毎日1回以上家族や友人等と一緒に食事をする市民の割合		66.8%	85%以上
4	朝食を欠食する若い世代の割合	学童期（6～12 歳）	4.2%	0%
		思春期（13～19 歳）	17.2%	0%
		20 歳代	29.9%	25%以下
		30 歳代	22.3%	20%以下
5	主食・主菜・副菜を組み合わせた食事を1日2回以上ほぼ毎日食べている市民の割合		49.3%	60%以上
6	主食・主菜・副菜を組み合わせた食事を1日2回以上ほぼ毎日食べている若い世代の割合		34.9%	50%以上
7	1日あたりの食塩摂取量の平均値		10.1 g	8 g 以下
8	1日あたりの野菜摂取量の平均値		280.5 g	350 g 以上
9	1日あたりの果物摂取量 100g 未満の市民の割合		61.6%	30%以下
10	女性のやせ（低体重）の割合	20～30 歳代	15.3%	15%未満
11	生活習慣病予防や改善のために、適切な食事や定期的な運動を継続して実施している市民の割合		66.1%	75%以上
12	定期的に歯科健診を受診している市民の割合		57.5%	85%以上
13	ゆっくり噛んで味わって食べるなど食べ方に関心のある市民の割合		39.9%	45%以上
14	食育の推進に関わるボランティア団体等において活動する市民の数		1,269 人	1,400 人以上
15	農林漁業体験をしたことがある市民の割合		31.9%	40%以上
16	地元（静岡市）で生産されたものを日頃から購入するようにしている市民の割合		21.0%	30%以上
17	環境に配慮した農林水産物・食品を選ぶ市民の割合		44.7%	65%以上
18	食品ロス削減のために行動をしている市民の割合		61.2%	75%以上
19	地域や家庭で受け継がれた伝統的な料理や作法などを継承している市民の割合		28.2%	35%以上
20	郷土食・伝統料理を月1回以上食べている市民の割合		—	30%以上
21	茶葉から入れた緑茶を飲む市民の割合		40.8%	60%以上
22	食品の安全性について基礎的知識を持つ市民の割合		63.9%	70%以上

※現状値の出典

1-6, 10-13, 15, 17-20, 21-22 「静岡市健康・食育に関する意識・生活アンケート調査」（令和4年実施）より
7-9, 20 「国：第4次食育推進基本計画」より 16 「静岡市農業振興計画」（農業政策課）より（14 当課調査より）

第4章

食育施策の展開

- 4-1 ライフステージに応じた食育の推進
- 4-2 基本施策ごとの主な取組
- 4-3 第4次静岡市食育推進計画実施事業一覧

4-1 ライフステージに応じた食育の推進

		乳児～幼児期 0～5歳	学童期 6～11歳
誰もが 生涯健康で 心豊かな食生活 の実現	(1) 栄養バランスに 配慮した 食生活の実践	好き嫌いをなく食べる	
	(2) 適正体重や減塩等に 配慮した 食生活の実践	好き嫌いをなく食べる	栄養バランスの
	(3) 食品の安全・安心に 関する知識の習得	体を動かし 毎食しっかり食べる	
	(4) よく噛んで食べる ことや 楽しく食べる経験 を通じた 食生活の推進	だしを活用し、うす味を習慣づける	食品の安全に関する
若い世代が 食を楽しみ、 食の大切さを知る 食育の推進	(5) 食育の普及啓発・ 情報発信	色々な食品があること を知る	正しい箸の持ち方
	(6) 規則正しい 食習慣の実践	よく噛んで食べる習慣 を身につける	歯磨きの習慣を身につけ、保護者と歯や口のケアをする
持続可能な 食を支える 環境の醸成	(7) 環境に配慮した 食生活の実践	歯磨きの習慣を身につけ、保護者と歯や口のケアをする	家庭や仲間と一緒に食べる楽しさを知る
	(8) 地産地消の推進	家庭や学校、地域を通して、食について知識	朝食の大切さ
	(9) 農林漁業生産者と 消費者との交流	保護者が食に関する正しい知識に配慮し、 子どもに伝える	朝食を食べる習慣を
	(10) 食文化の継承	早寝・早起きなど 生活リズムを身につける	食品ロス削減
		好きな食べ物を増やし 残さないようにする	
			地元（静岡市）で生産されたものを知り、
			行事食や郷土料理を知り、
			茶葉から入れた緑茶に親しみ、自ら入れられる

思春期 12～18歳	青年期 19～39歳	壮年期 40～64歳	高齢期 65歳以上
	適正体重を知る		
	適正体重を維持する		
	栄養バランスを考えた食事を心掛ける／野菜料理をたっぷり食べる		
	基本的な調理技術を身につける		
大切さを知る	外食・中食を活用し、栄養バランスを考え選択する		
	適切な食事や運動等を継続的に実践する		
自分の適正体重を知り維持に心掛ける		フレイル予防	
	食塩をとりすぎないような食生活を送る		
知識を身につける	食品の安全性に対する知識の向上に努め、日常生活に活かす		
	よく噛んで味わって食べる		
を身につける	食べ方について関心を持ち実践する	食べ方のマナーを伝える	
	定期的に歯科健診や歯石除去を受ける		
	正しい歯みがき習慣をつけ、実践する		口腔機能の維持向上を心掛ける
	家族や職場の同僚・友人等と楽しく食事をするように心掛ける		家族や地域の仲間と楽しく食べる習慣を持続する
を身につける	食について知っていることを伝える		
	ホームページやSNSを活用し、多様な情報を収集する		広報やパンフレットを活用し、多様な情報を収集する
	産地・栄養成分表示等の情報や食に関する事業に関心をもつ		
を知る	規則正しい生活習慣のリズムを作り、朝食を毎日食べる		朝食を毎日食べる習慣を継続させる
身につける	朝食のメニューを知り実践する	家族などと朝食を食べる	
について学ぶ	食品ロス削減について関心を持ち、身につけた知識を実践する		
味わう	地元（静岡市）で生産されたものを活用し、地産地消に心掛ける		
	農林漁業体験を通して、食べ物や生産者と触れ合い関心を持つ		
	茶葉から入れた緑茶を飲む		
食べる		行事食や郷土料理を食事に取り入れ、次世代に伝える	
習慣を身につける			

4-2 基本施策ごとの主な取組

基本方針：誰もが生涯健康で、心豊かな食生活の実現



基本施策（1）栄養バランスに配慮した食生活の実践

食を取り巻く社会環境や生活環境の変化により、食に関する価値観やライフスタイルも多様化し、どの世代において栄養バランスの内容について様々な課題を抱えています。生活環境が変化した際にも対応できる知識と技術を身に付けるなど、市民一人一人が健全な食生活に関心を持って実践できるように、それぞれの世代に応じた食育を推進します。

◆まちの現状と目指す方向性◆

- ・朝食や昼食において、主菜（肉・魚・卵・大豆製品）、副菜（野菜・きのこ・海藻・いも）が不足、高齢者の夕食において、主食（ご飯・パン・麺など）を控える割合が増加
- ・昼食においては、自分の好みに偏った外食、中食を利用している市民が多い傾向

- ・各年代に応じた食事の重要性を理解し、主食・主菜・副菜を組み合わせた食事を実践
- ・健康に配慮したメニューの提供をする飲食店を増やし、自然に健康になれる食環境づくりを推進

◆主な事業◆

事業名	取組内容	担当課
あそび・子育ておしゃべりサロン	公立こども園に栄養士を派遣し、来園した地域の未就園児とその保護者に講座・相談等を実施する。	子ども未来課
ヘルシー食 de ブランディング 飲食関係者向け専門講座	飲食の提供を行うお店の経営者のシェフが、食と健康をテーマにヘルシーメニューの「型」づくりの手法、マーケティング等を学び、食に新たな付加価値をつける支援を行います。	健康づくり推進課
元気で長生き栄養講座	介護予防についての講話、簡単な調理実習・試食を行い、高齢期の食生活について楽しく学びます。	各区役所健康支援課

◆目標指標◆

主な目標	現状値（R4）	目標値（R12）
主食・主菜・副菜を組合わせた食事を1日2回以上ほぼ毎日食べている市民	49.3%	60%以上
主食・主菜・副菜を組合わせた食事を1日2回以上ほぼ毎日食べている若い世代	34.9%	50%以上

元気で長生き栄養講座 (葵・駿河・清水区役所健康支援課)

65歳以上の高齢者の方を対象に、栄養バランスのとれた食生活の知識を身に付け、低栄養予防に取り組むことができるように、講話や簡単な調理実習・試食を行います。同じ年代の方々と一緒に食事を楽しむことで、「共食」の機会となっています。



【静岡市食育セミナー開催】

つくる人、食べる人の
外食×ヘルシーで付加価値づくり講座
(健康づくり推進課)

飲食業界においても健康に配慮したメニュー作りの必要性の啓発及び普及促進を目指すために飲食関係者向けに食育セミナーを開催しています。



ヘルシー食 de ブランディング 飲食関係者向け専門講座 (健康づくり推進課)



飲食の提供を行うお店の経営者やシェフが参加し「食と健康」をテーマに、医療・栄養・調理の基礎知識、栄養価計算、メニュー作りの手法及びマーケティングの基礎をインターネットや対面にて学び、自らヘルシーメニューの創作・提供が行える人材の養成を目的に開催します。

栄養バランスのよい食事を選択できる食環境づくりに取り組みます。

↑ キックオフ講座（初回）の様子



※「静岡シズンカレッジ こ・こ・に」とは？

市民と行政との協働によるまちづくりを担うシズンシップに富んだ人材の養成を目指すしくみです。地域で活動する人材を養成する総合過程と、福祉や環境など分野別に人材を養成する専門課程を設定しています。

基本施策（2）適正体重や減塩等に配慮した 食生活の実践



メタボリックシンドロームとは内臓脂肪の蓄積により、脂質異常や、糖尿病、高血圧症を合併する症候群のことをいい、いずれも生活習慣とかかわりが深いです。

日頃から減塩をはじめとして栄養バランスのとれた食生活を実践し、運動を継続して、適正体重を保持していくことが重要です。また定期的な健康診断で客観的に自分の体の状態を確認してもらうことや保健指導・栄養指導などを通し幅広い世代に対して、健康教育の充実を図ります。

◆まちの現状と目指す方向性◆

- ・ 偏った栄養摂取や不規則な食事などの乱れによる肥満や痩身傾向
- ・ 野菜、果物の摂取不足や塩分摂取の過剰傾向

- ・ 年代に応じた食事量や内容を知り、適正体重の維持を図る
- ・ 全世代の生活習慣に関する情報の発信や食育を含む学習機会の提供

◆主な事業◆

事業名	取組内容	担当課
食生活サポート講座	講話や調理体験を通して適切な食事量を知り、生活習慣病の予防改善を行います。	各区役所健康支援課
生活習慣病予防教室	減塩料理を通して生活習慣病予防のための知識を身に付け、家庭で実践できるよう講話と調理実習を行います。	静岡市食生活改善推進協議会
食に関する指導	静岡市教育委員会食育推進計画に基づき、栄養教諭・栄養士が児童生徒へ食に関する正しい知識と望ましい食習慣が身につくよう支援します。	学校給食課

◆目標指標◆

主な目標	現状値（R4）	目標値（R12）
1日あたりの食塩摂取量の平均値	10.1g※	8g以下
1日あたりの野菜摂取量の平均値	280.5g※	350g以上
1日あたりの果物摂取量100g未満の市民の割合	61.6%※	30%以下
女性（20～30歳代）のやせ（低体重）の割合	15.3%	15%未満
生活習慣病予防や改善のために、適切な食事や定期的な運動を継続して実施している市民の割合	66.1%	75%以上

※第4次食育推進基本計画現状値（R2）より

食生活サポート講座（葵・駿河・清水区健康支援課）

自分の健診結果を理解して、自らの生活習慣を振り返り、生活習慣病予防のための食生活の基本を正しく理解し、適正体重を知り、実践する力を身に付けるために、栄養士による講話・調理実習を通して学びます。

【3つのテーマ別に開催】

- ・ 高血圧予防編
- ・ 高血糖予防編
- ・ 高コレステロール予防編



自分の適正体重を知り、定期的に体重を量りましょう

フレイル（高齢期の虚弱）について

フレイルは、加齢や疾患により、身体的・精神的に様々な機能が徐々に衰え、介護が必要になりやすい、健康と要介護の間の虚弱な状態のことです。

フレイル予防 ⇒ 栄養・身体活動、社会参加

健康寿命延伸のために減塩に取り組みましょう

- ・ 麺類の汁を残したり、みそ汁などの汁物は1日2回程度にしましょう。
- ・ しょうゆは「かける」ではなく小皿に入れて「つける」ようにしましょう。
- ・ 調味料は計りましょう。
- ・ だし、香辛料、香味野菜などの旨味や香りを上手に利用しましょう。



基本施策（3）食品の安全・安心に関する知識の習得

近年、食生活の多様化や食品流通のグローバル化に伴い、市民の食の安全・安心への関心は高い状況にあります。市民が自らの食生活について判断・選択し、具体的な行動を実践できるよう、講演会や、教室開催、イベントなどを通じて情報提供を行い、食品衛生に関する正しい知識の普及と理解向上に努めます。

◆まちの現状と目指す方向性◆

・食品の安全性について基礎的知識を持つ市民の割合の鈍化

・食生活や健康に関する正しい知識を持ち、自ら食を選択する市民の増加

◆主な事業◆

事業名	取組内容	担当課
食の安全教室	小学生等を対象に、食中毒や添加物などについての講話をし、食の安全に関する意識や知識の向上が図れるよう出前講座を行います。	食品衛生課
栄養成分表示促進事業	食品関連事業者が自ら栄養成分表示をするため、知識及び技術の習得を支援します。また、市民が自ら健康的な食生活を実践するため、栄養成分表示に関する情報提供を行います。	食品衛生課
「静岡食協ニュース」の編集、発行（年4回）	静岡市食品衛生協会機関紙として年4回発行し、食品事業者へ食に関する情報等について提供します。	静岡市食品衛生協会

◆目標指標◆

主な目標	現状値（R4）	目標値（R12）
食品の安全性について基礎的知識を持つ市民の割合	63.9%	70%以上

食の安全教室（食品衛生課）

食の安全を守る専門家が学校に出張して子どもたちに食の安全について知ってもらうための授業を行っています。クイズあり、実験ありの楽しい授業で、「本当に気をつけなくてはならないもの」は何なのか、学んでもらっています。
「食品添加物の検査」「食中毒とその予防」などのプログラムがあります。

栄養成分表示促進事業（食品衛生課）

栄養成分表示への理解を深め、市民自ら健康的な食生活を送るために、講習会の開催やウェブサイトによる情報発信を実施します。

消費者庁【消費者の方向け】栄養成分表示の活用について

検索

「たべしず動画」YouTube 配信

- ・食の安全・安心に関する情報を、少しのユーモアを交えて、ご紹介します

二次元

バーコード

【コラム】食中毒や食物アレルギーに気をつけましょう

食中毒は、食物に付着したウイルスや細菌のほか、毒キノコなど、本来、食べてはいけないものに含まれた毒などが原因で生じる症状です。手洗いは、予防の第一歩です。一方、食物アレルギーは免疫がかかわる症状です。

～第4次食育推進基本計画より～

基本施策（４）よく噛んで食べることや楽しく食べる経験を通じた食生活の推進



歯や口の健康を守ることは栄養を摂取する、食事を楽しむ、会話をするなど豊かな食生活を営む上で重要な役割を果たしています。健康でいきいきとした生活を送るために、生涯を通じて自分の歯と口でよく噛んで味わって食べることができるよう支援し、家族や友人、同僚、地域の人などと共食の機会を持てるよう推進し、実践ができるよう事業を行います。

◆まちの現状と目指す方向性◆

- ・ 定期的な歯科健診受診率の向上
- ・ 共食（家族や友人等と会話を楽しみながら食べる食事）の減少

- ・ 歯と口の健康を維持し、よく噛んで食べることで生活習慣病予防を推進
- ・ 共食の場の提供

◆主な事業◆

事業名	取組内容	担当課
食に関する指導	小中学生を対象に、噛むことの大切さや噛む回数を意識するよう啓発しています。児童生徒に、食に関する正しい知識と望ましい食習慣が身につくように支援をします。	学校給食課
歯周病検診	満40歳になる市民を対象に「無料の歯周病検診」を実施します。	健康づくり推進課
歯みがきスタート教室	歯科衛生士による講話や、YouTubeなどを通じて、歯科保健に関する知識の普及をします。	健康づくり推進課
おやこ食育教室	親子で教室に参加し、朝食の重要性や共食等の望ましい食習慣を学び、食を楽しむ機会を提供します。	各区健康支援課

◆目標指標◆

主な目標	現状値（R4）	目標値（R12）
毎日1回以上家族や友人等と一緒に食事をする市民の割合	66.8%	85%以上
定期的に歯科健診を受診している市民の割合	57.5%	85%以上
ゆっくり噛んで味わって食べるなど食べ方に関心のある市民の割合	39.9%	45%以上

歯みがきスタート教室（健康づくり推進課）



イラスト予定

はじめての歯が生えてくる時期に、むし歯予防について学ぶことができる教室です。実際にお子さんのお口の中を見ながら、仕上げみがきの方法などが体験できます。

おやこ食育教室（葵・駿河・清水区役所健康支援課）

おやつを含めた幼児食の基礎、お手伝いのきっかけづくりなど、紙芝居などを通して、食の大切さや望ましい食習慣（朝食や共食等）を親子で楽しく学ぶ教室を開催しています。



ゆっくり、よく噛んで食べましょう

よく噛んで食べることは、速食いを防止して満腹感が得られやすくなり、肥満予防につながります。また、よく噛むことで、ホルモン分泌が高まり、食欲が抑えられたり、ゆっくり味わうことで、うす味・適量で満腹感が得られます。

～第4次食育推進基本計画より～

共食(きょうしょく)の大切さ

家族や友人等と一緒に食卓を囲んで、共に食べることを「共食」といいます。食事のマナー、栄養バランスを考えて食べる習慣や食べ物や食文化を大事にする気持ちなどを子どもに伝える機会となります。

【教室の様子】

★シニアカフェ★
(静岡市食生活改善推進協議会)
事業紹介

基本方針:若い世代が食を楽しみ、食の大切さを知る食育の推進



基本施策 (5) 食育の普及啓発・情報発信

食育は生涯にわたり理解を深め実践するものです。幅広い世代に対して、それぞれのライフステージに合った情報を発信することで、食の知識を身に付け、関心を高め継続できるよう、多角的にアプローチをしていきます。

◆まちの現状と目指す方向性◆

・食育に関心を持つ若い世代の減少

- ・「毎年6月は食育月間」「毎月19日は食育の日」の取組の充実
- ・食を通じた豊かな食生活の実践を次世代へつなげる

◆主な事業◆

事業名	取組内容	担当課
公立こども園における食育推進事業	体験や給食を通し、食習慣の取得の啓発を実施しています。また、食育だよりやレシピを配布することで保護者への情報提供を行います。	こども園課
食に関する情報発信	学校給食献立表を活用して、栄養バランス、旬の野菜、食事のマナー、ふるさと給食や行事食などを紹介します。	学校給食課
食の安全・安心 HP「たべしずねっと」	食育や食の安全に関する情報、レシピ集、イベント情報等を掲載します。	食品衛生課
しずまえ新聞の発行	しずまえの漁業や水揚げされる水産物、しずまえ鮮魚の豆知識、魚料理のコツなどを掲載した新聞を公立小・中学校の児童、生徒全員に配布します。	水産漁業課

◆目標指標◆

主な目標	現状値 (R4)	目標値 (R12)
食育に関心を持つ若い世代の割合	58.7%	85%以上
食に関する情報を得るために行動をする若い世代の割合	46.3%	80%以上

食に関する情報発信（学校給食課）

学校給食についての情報を、静岡市学校給食キャラクター”しょっかんくん”と共に発信します。

静岡市学校給食ウェブサイト
しょっかんくんとおいしい静岡いただきます
～しょっかんくんの旅～
食材、献立、調理など給食にかかわる人たちからの情報発信ページです。

二次元
バーコード

食の安全・安心 HP「たべしずねっと」（食品衛生課）

「食べものについてもっと知りたい」「安全・安心な食生活を送りたい」という市民の皆さんのご要望にこたえるために、食に関する情報提供、行政や食品事業者の食の安全確保のための取組などの紹介をしています。

二次元
バーコード

しずまえ新聞の発行 （水産漁港課）

しずまえ新聞は、静岡市立の全小学校の児童・全中学校の生徒に配布する“しずまえ情報盛りだくさん”な新聞です。

オクシズについての取組 （中山間地振興課予定）

※オクシズ新聞などの情報発信予定

災害時のために備えましょう ～ローリングストック法～

災害発生からライフライン復旧まで1週間以上を要するケースにそなえ、最低3日分～1週間分×人数分の食品の家庭備蓄をしましょう。普段の食品を多めに買い置きし、消費した分を補充するローリングストック法で、備蓄に取り組みましょう。



基本施策（6）規則正しい食習慣の実践

望ましい食習慣を身に付け、生涯にわたって健全な食生活を実践していくためには、若い世代からの食育が重要です。若い世代が栄養バランスや朝食の重要性等を知るとともに、実践のための調理技術や食を選択する力をつけることができるよう支援します。

◆まちの現状と目指す方向性◆

・若い世代において、栄養バランスのとれた食事、規則正しい食習慣、女性のやせ、朝食の重要性への意識などの食に関する課題が他年代と比べて多い傾向

・若い世代が食に関する知識を深め、意識を高め、心身の健康を増進する食生活の実践

◆主な事業◆

事業名	取組内容	担当課
しずおかカラダに eat75	民間企業・高校・大学等と連携し、食育教室や食育イベントを開催するなど「食」を通じた健康づくり事業を実施します。	健康づくり推進課
食に関する指導	静岡市教育委員会食育推進計画に基づき、栄養教諭・栄養士が児童生徒へ食に関する正しい知識と望ましい食習慣が身につくよう支援します。	学校給食課
栄養素について学ぶ	乳幼児とその保護者に対して3種類の栄養素について、身近な食材を用いて食育講話をします。	静岡市 私立幼稚園連合会

◆目標指標◆

主な目標	現状値（R4）	目標値（R12）
毎日1回以上家族や友人等と一緒に食事をする市民の割合	66.8%	85%以上
朝食を欠食する若い世代の割合		
学童期（6～12歳）	4.2%	0%
思春期（13～19歳）	17.2%	0%
20歳代	29.9%	25%以下
30歳代	22.3%	20%以下
主食・主菜・副菜を組み合わせた食事を1日2回以上ほぼ毎日食べている若い世代の割合	34.9%	50%以上

食に関する指導（学校給食課）

日々の学校給食の時間や献立を活用した食育の推進（給食を生きた教材として活用）とともに、栄養教諭、栄養士による食に関する指導を各学年1回以上実施しています。

食に関する指導の様子の
写真を予定

給食の様子の写真
またはイラストなど

栄養素について学ぶ（静岡市私立幼稚園連合会）

幼稚園の取組について事例紹介

給食の献立の材料を3色の食品群に分けてそれぞれの役割について学びます。
また、紙芝居やエプロンシアターなど、子どもたちが興味を持ち、理解できるよう工夫をして伝えています。

赤の食べ物の役割：血や肉になる、いのちを支える大切な栄養である「たんぱく質」がたくさん含まれています（肉・魚・豆腐・牛乳など）

黄色の食べ物の役割：糖質パワーが熱を生み、体を温め、力になってくれます（ごはん、パン、めん、いもなど）

みどりの食べ物の役割：お腹の調子を良くしたり、むし歯予防など、体の調子を整えてくれます（野菜、くだものなど）

しずおかカラダに eat75（健康づくり推進課）

若い世代は生活環境の変化から食生活が乱れやすく、野菜不足や朝食欠食等の食に関する課題が多くみられます。若い世代から望ましい食生活を実践し、健康寿命延伸につなげられるよう、主体的に取り組む食育推進事業を展開しています。

高校生を対象とした出張型食育教室



高校生が簡単に作ることができることをテーマに市民から簡単朝食レシピを募集しました。そのレシピを実際に高校生が調理・試食してリーフレットにまとめました。

二次元

毎日元気 de おはようレシピ →

バーコード



高校生が簡単に作ることができることをテーマに市民から簡単朝食レシピを募集しました。そのレシピを実際に高校生が調理・試食してリーフレットにまとめました。

進学や就職に伴う生活スタイルの変化によって、食生活が乱れやすくなる前の高校生を対象に、食事のバランスを整える野菜たっぷりレシピについて学ぶ食育教室を、民間事業者と連携し、講義と調理実習・試食を行いました。



健全な食生活の実践のために、食を選択する力を身に付け、手軽に作ることができる野菜料理等を調理実習などを通して楽しく学びます。さらに食の楽しさを情報発信していく若い世代を増やしていく取組を継続していきます。

食育啓発用まんがを読みましょう



知って得する！食事のアレコレ～内側から輝くために～

「朝ごはんってそんなに大事なの？」

「野菜を食べないとどうなるの？」

「お腹いっぱいになれば、何食べてもいいんじゃない？」

社会に巣立つ前の高校生に向け、食事の内容や栄養バランスを整える重要性を伝える内容です。



一人暮らしのどうする？ごはん！

「一人暮らしの準備は大丈夫？」

「コワイ！やりすぎダイエット」

「作らなくてもOK！食事の組み合わせのコツ」

高校生の時期に挑戦してほしい簡単朝ごはんレシピの紹介を含む内容です。

新社会人に向けた出張型食育教室

静岡市内の健康経営優良法人認定を受けた事業所等を栄養士が訪問し、新社会人や20歳代の社員を対象に栄養バランスや朝食摂取などをテーマとした食育教室を実施します。



基本施策 (7) 環境に配慮した食生活の実践

食料の生産から消費に至る食の循環が環境へ与える影響に配慮し、食におけるSDGsの目標達成や、国が定めた「みどりの食料システム戦略」の目指す姿を考慮した取組を推進していきます。

また、本来食べられるにもかかわらず廃棄されている食品ロスが、年間523万トン（農林水産省令和3年度推計）発生しています。そのうち半分は家庭から発生しています。食品の売れ残りや食べ残し、調理の段階で発生する食品ロスについて「もったいない」と感じる気持ちを育み、市民一人ひとりが実践できるよう啓発を行っていきます。

◆まちの現状と目指す方向性◆

- ・環境に配慮した農林水産物、食品*について意識し、選ぶ市民の増加が必要
*農業や化学肥料に頼らず生産された有機農産物や過剰包装でなくゴミが少ない商品など、環境への負荷をなるべく低減した農林水産物、食品のこと
- ・食品ロス削減への取組をする市民の更なる増加が必要

・環境に配慮した食材を知り、選択する力を身に付け、環境問題への意識を高める食育を推進

◆主な事業◆

事業名	取組内容	担当課
食品ロス削減対策事業	ごみ削減講座の開催、30・10（さんまる・いちまる）運動の推進等を通じて、食品ロス削減に対する意識向上を図り、ごみ減量を推進します。	ごみ減量推進課
スマートクッキング	家庭で環境に配慮した料理作りを実践してもらえるよう料理教室を開催します。	静岡市食生活改善推進協議会
エシカル消費と家庭の食事	人と地球に優しいお買い物講座等を開催し、時短料理やおやつ作りをします。	しずおか市消費者協会

◆目標指標◆

主な目標	現状値 (R4)	目標値 (R12)
環境に配慮した農林水産物・食品を選ぶ市民の割合	44.7%	65%以上
食品ロス削減のために行動をしている市民の割合	61.2%	75%以上

食品ロス削減対策事業（ごみ減量推進課）

食品ロス削減対策について、幅広い対象へ周知を図るために、イベントなどの機会をとらえて、啓発活動を実施します。

- ・フードドライブ啓発キャンペーン
- ・食品ロス削減キャンペーン
- ・静岡版「もったいない運動」の取組など

【食品ロスの約半分は家庭から出ている】～第4次食育推進基本計画より～

日本の食品ロス量の約半分は家庭から出ています。みんなが「もったいない」という思いをもち、行動することが大切です。無駄な買い物はしない、料理を食べきるなど、できることから始めましょう。

食品ロス削減推進サポーターとして活動しています

（静岡市食生活改善推進協議会）

自治体や団体と連携し、地域に根ざした食品ロスに関する周知啓発、削減の取組を進める食品ロス削減推進サポーターの育成のために消費者庁開催のオンライン講座を受講した、静岡市食生活改善推進協議会の推進員が地域で活躍しています。

推進員の写真予定

農林水産省「みどりの食料システム戦略」(令和3年5月策定)

「食べる」ことは、私たちの健康や生活に深く関わりますが、その食べ物を作って食べることが地球環境に大きな影響を与えていることは、あまり知られていません。農作物を作るときに使われる大量の水、食品を運ぶときに排出されるCO₂、食品の包装容器や食べ残しなど…、これらは全て地球の健康を害する要因となっています。

農林水産省では、だれ一人取り残されることなく、将来にわたって健康で安全な食をみんなが享受できるよう、環境に優しく持続可能な生産～消費を実現する

「みどりの食料システム戦略」を進めています。



基本施策（8）地産地消の推進

地産地消の取組は、消費者が身近な場所で作られた新鮮な地場産物を手に入れるだけでなく、地場産物を使った地域の伝統料理を食べることができます。地域の自然、文化、産業への理解を深めるとともに生産者の努力や食への感謝の気持ちを育むことに繋がります。より多くの方に静岡市農林水産物の良さを知ってもらい、生産者と消費者を結び付け、地場産物に触れる機会を増やしていきます。

◆まちの現状と目指す方向性◆

- ・ 静岡市農林水産物の認知度の向上
- ・ 静岡市で生産された物を日頃から購入できる機会の増加が必要

- ・ 静岡市で生産された物への理解を深める食育を推進
- ・ 輸送コスト削減により脱炭素への貢献を目指す

◆主な事業◆

事業名	取組内容	担当課
地場産物を取り入れた献立の提供	県内産食材や地域の食文化を生かした献立を提供します。	学校給食課
静岡市認定農業者協会「春の市・秋の市・冬の市」	市内の認定農業者が生産した農産物や加工品を、生産者自らが消費者に直接販売します。	静岡市認定農業者協会 農業政策課
地元の海産物（しらすをメインに食べてみよう）	市場でのしらす水揚見学と講義、乗船体験を実施します。	清水漁業協同組合

◆目標指標◆

主な目標	現状値（R4）	目標値（R12）
地元（静岡市）で生産されたものを日頃から購入している市民の割合	21.0%	30%以上

地場産物を取り入れた献立の提供（学校給食課）

【わくわく給食の紹介を予定】

「わくわく給食」とは、静岡自慢のブランド食材を使った給食です。

この取組には、小中学校の皆さんの給食時間がより楽しくなり、もっと静岡のことを知って好きになってもらいたいという願いが込められています。

わくわく給食の
イメージ写真予定

静岡市認定農業者協会「春の市・秋の市・冬の市」 （静岡市認定農業者協会・農業政策課）

事業紹介と様子

静岡市の旬を食べよう ～しずおか旬ごよみ～

【知ろう 3つの旬】

①走り（出始め）の旬 ②量の旬 ③味の旬

旬で季節を感じながら、おいしく農産物を味わおう
（ZRATTO!しずおか）

「旬」のロゴマーク
やZRATTO!
しずおかの
二次元バーコード

基本施策（9）農林漁業生産者と消費者との交流

自然と向き合いながら仕事をする農林漁業生産者と消費者が交流することで、自然の恩恵を感じるとともに、食に関わる人々の活動の重要性と地域の農林水産物に対する理解の向上などを期待できます。これまで以上に連携を深め、家庭や地域、教育の場以外でも交流ができるような機会や情報提供を行っていきます。

◆まちの現状と目指す方向性◆

・農林漁業生産者と消費者の交流の機会の不足

・農林漁業体験を通して、農林水産業に対する理解を深め、生産者と消費者との交流を推進

◆主な事業◆

事業名	取組内容	担当課
生消費言倶楽部	野菜栽培や加工品作りを通して、生産者と消費者が交流し、旬の食材を使った伝統食や地産地消の大切さを学ぶ機会を作ります。	静岡市農業協同組合
アグリチャレンジパーク蒲原活用事業	野菜の苗植え、収穫時の農業体験イベントを実施します。	農業政策課
しずまえ漁業見学ツアー	小中学生と保護者を対象に、市内で行われる漁業（桜えび漁、しらす漁、定置網漁など）や競りの様子、水産加工場の見学会を実地します。	水産漁港課

◆目標指標◆

主な目標	現状値（R4）	目標値（R12）
農林漁業体験をしたことがある市民の割合	31.9%	40%以上

しずまえ漁業見学ツアー（水産漁港課）

事業紹介と様子

こども園などの農業体験の様子（予定）



- ・じゃがいもが収穫できることを喜び、畑に親しみを持つ(年中さん)
- ・みんなで収穫したじゃがいもを使って、クッキングを楽しむ(年長さん)
など、収穫体験→調理→試食についての様子を紹介予定

【農林漁業体験をするとこんないいことがあるの？】

～第4次食育推進基本計画より～

農林漁業体験は、

- ①食べ物に対する意識や関心の変化と関係しています。
- ②食べ物に関する意識や知識と関係しています。
- ③食べ物の嗜好と関係しています。
- ④食べ残しなどの食行動と関係しています。
- ⑤心の健康と関係しています。

基本施策（10）食文化の継承

静岡市は地域特性にあった山の恵み（オクシズ）から日本一の深さを誇る駿河湾の恵み（しずまえ）といった自然に恵まれ多様な食文化を持っています。地域の行事と結びついた行事食や静岡の豊かな食材を用いた郷土・伝統料理など、先人から受け継がれた食文化を次世代に繋げられるよう推進していきます。

また静岡は日本屈指の茶の生産地ですが、近年茶葉から緑茶を飲む市民が減少傾向にあります。茶葉から出すことによって味わえるおいしさを伝え、実践する市民が増えるよう普及啓発を行っています。

◆まちの現状と目指す方向性◆

- ・ 地域や家庭で受け継がれた伝統的な料理や作法などの継承の不足
- ・ 茶葉から入れた緑茶を飲む市民の減少

- ・ 伝統的な料理や作法などについて周知啓発や体験する機会の増加
- ・ 緑茶を飲む機会を推進

◆主な事業◆

事業名	取組内容	担当課
食育応援団	食に関する知識や経験を持っている個人、団体、企業が「食育応援団」として登録し、食育に取組む市民からの依頼により講座や調理実習を行います。	健康づくり推進課
お茶の美味しい入れ方教室	小学生に対し一人ひとり茶器に触れ、茶葉でお茶を入れる体験を実施し、お茶の飲み比べや味の違いを体験します。	農業政策課
ライフステージに応じた各種食育推進講座	各生涯学習施設において、食育講座・料理講座を実施します。	生涯学習推進課
食育ボランティア人材養成講座	食の「大切さ」や「楽しさ」の普及を目的に、食に係る知識や技術を、講義や調理実習を通して学び、地域での食に関するボランティア活動につなげます。	健康づくり推進課

◆目標指標◆

主な目標	現状値（R4）	目標値（R12）
食育の推進に関わるボランティア団体等において活動する市民の数	1,269人	1,400人以上
地域や家庭で受け継がれた伝統的な料理や作法などを継承している市民の割合	28.2%	35%以上
郷土食・伝統料理を月1回以上食べている市民の割合	—	30%以上
茶葉から入れた緑茶を飲む市民の割合	40.8%	60%以上

お茶の美味しい入れ方教室（農業政策課）

二次元

バーコード



・ お茶のまち静岡市

小学校5、6年生を対象とした、日本茶インストラクターによるお茶の美味しい入れ方と「お茶のまち静岡市」について学ぶ授業を実施します。

【11月1日は静岡市「お茶の日」です】

11月1日は静岡市（葵区柘沢）出身の「静岡茶の祖」と言われる聖一国師の生誕の日です。新茶の時期だけでなく、一年を通してお茶に親しんで欲しいとの願いが込められています。

～お茶のまち静岡市より～

食育応援団（健康づくり推進課）

味噌づくりなどの講座の紹介（予定）

食育に関する知識や経験を持っている個人・団体・企業を応援団として登録し、食育に取組み市民からの依頼によりその内容にあった応援団を紹介します。

飲むとホッとする
効果もあります

お茶と健康「おいしいだけじゃない！からだに良いお茶」

- ★朝のめざましにカフェイン！（お茶に入っているカフェインは目が覚める作用などがあります）
- ★むし歯と口臭予防！！（カテキンとフッ素が口の中を清潔にしてくれます）
- ★ミネラルいっぱい！（カロリーゼロでも栄養満点です）
- ★食中毒予防に！（おどろきの茶カテキンの殺菌力）
- ★美しさのヒケツ！？（ビタミンCが豊富でお肌にいい！）

～しずおか発！ワクワクお茶のたんけん隊（静岡県健康福祉部 健康増進課・静岡県健康づくり食生活推進協議会・（公社）静岡県茶業会議所）より～

4-3 第4次静岡市食育推進計画実施事業一覧

作成中

◎重点事業…計画の目標数値を達成する上で最も影響のある事業

No.	重点事業	事業	事業内容	目標数値	担当課・団体
1		0歳児の育児相談、6ヵ月児育児相談における栄養相談	離乳食に関する個別栄養相談		葵・駿河・清水区健康支援課
2		離乳食の作り方教室	講話・調理実習・実演・試食・個別相談		葵・駿河・清水区健康支援課
3		食育活動	市内の児童館等で栄養士や食生活改善推進協議会による食育講座や野菜の栽培～消費までの体験イベントなど食に触れる活動を行う。		子ども未来課
4		あそび、子育ておしゃべりサロン	公立こども園に栄養士を派遣し、来園した地域の未就園児とその保護者に講座・相談等を実施する。		子ども未来課
5	◎	公立こども園における食育推進事業	<ul style="list-style-type: none"> ・体験を通じた適切な食習慣の体得（野菜、米等の栽培やクッキング、地域や公共機関と連携した食育推進、旬の食材の活用） ・給食を通じた適切な食習慣の啓発（行事食、食材・給食・食育資料等の展示、食育だより・レシピの配布、保護者への試食会） ・歳児別食育計画作成 		こども園課
6		食育講習会	各小中学校での食育推進の支援のため、講義、実践発表等を実施		学校給食課
7		しずまえ新聞の発行	しずまえの漁業や水揚げされる水産物、しずまえの豆知識、魚料理のコツなどを掲載。公立小中学校の児童、生徒全員に配布（私立校は学校に配布）		水産漁港課
8	◎	しずおかカラダに eat75	民間企業・大学等と連携し、意見交換会や食育イベントを通して、まちぐるみで「食」を通じた健康づくり事業を実施する		健康づくり推進課
9	◎	食に関する指導	<ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒に食に関する正しい知識と望ましい食習慣が身につくように、各小中学校で食に関する指導を実施 ・献立表や給食だよりによる情報提供 		学校給食課
10		静岡市版食事バランスガイド	静岡市版食事バランスガイドを使用し、栄養バランスのとれた食生活の普及啓発を行う		健康づくり推進課
11		食育の日・食育月間の普及啓発	<ul style="list-style-type: none"> ・市役所にてポスター、ちらし等の展示、掲示 ・民間団体等と連携した食育活動 		健康づくり推進課

No.	重点事業	事業	事業内容	目標数値	担当課・団体
12		食育ホームページ	食に関する情報やイベント情報の提供、食育応援団の活動等を紹介		健康づくり推進課
13		食の安全・安心 HP「たべしずねっと」	食育や食の安全に関する情報、レシピ集、ニュース等を掲載する専用サイト		食品衛生課
14		保育フェアでの食育展示	<ul style="list-style-type: none"> ・こども園、保育園食育実施例の紹介（写真の展示・資料配布） ・こども園、保育園で栽培した野菜の展示 ・食事バランスガイド等食育に関するリーフレット配布 ・箸の持ち方資料配布 ・人形劇の実施 		こども園課
15		農水産物の情報発信	ホームページ・フェイスブックによる農水産物の情報発信（Z R A T T O！しずおか、お茶のまち静岡市）		農業政策課 水産漁港課
16		啓発資料の作成	<ul style="list-style-type: none"> ・小学1年生の保護者に「学校給食が始まります」を配付 ・小中学生に食食用クリアファイルの配付 		学校給食課
17	◎	食に関する情報発信	毎月配付している献立表を活用して、市内公立小中学校の児童生徒や保護者に食育を広く周知		学校給食課
18		食の安全・食育に関する資料の展示	市立図書館12館において、関連資料（本・パンフレット）を展示		静岡市立図書館
19		食育の日、食育月間の普及啓発	街頭キャンペーンの実施		静岡市食生活改善推進協議会
20		健康まつり	各保健福祉センターで食の啓発を行う		静岡市食生活改善推進協議会
21		第4次食育推進基本計画の重点課題の解決と目標達成のための取組	<ul style="list-style-type: none"> ・第4次食育推進基本計画の推進に係る情報提供 ・食育月間の取組み（食育推進ポスター掲示、動画での周知及びセミナー開催） ・「関東食育推進ネットワーク」の活性化（関東農政局ホームページ「食育ひろば」にて情報発信、会員へメールマガジン配信、食育活動の実施に関する交流会開催） 		関東農政局
22		フレッシュマタニティ教室	<ul style="list-style-type: none"> ・講話（妊娠中の栄養・食生活、食の安全に関する内容） ・個別相談 		葵・駿河・清水区健康支援課
23		1歳6か月児健康診査における栄養相談	健康診査時の個別栄養相談		葵・駿河・清水区健康支援課
24		3歳児健康診査における栄養相談	健康診査時の個別栄養相談		葵・駿河・清水区健康支援課
25		おやこの食育教室	子どもの頃からよい食習慣を身につける親子で手軽にできるおやつや昼食作り		静岡市食生活改善推進協議会

No.	重点事業	事業	事業内容	目標数値	担当課・団体
26		給食参観	保護者に給食参観をしていただき子どもと一緒に給食を食べ、栄養についても話をする。		静岡市私立幼稚園連合会
27	◎	栄養素について学ぶ	食育について、ペープサートや紙芝居等でわかりやすく伝える		静岡市私立幼稚園連合会
28	◎	元気で長生き栄養講座	介護予防についての講話、調理実習、試食		葵・駿河・清水区健康支援課
29		男性料理教室	男性のための料理教室		静岡市食生活改善推進協議会
30		高齢者向け教室	低栄養及び認知症予防等高齢者向け教室		静岡市食生活改善推進協議会
31		食育教室（学校・幼稚園等）	子どもを対象に食の大切さの啓発活動		静岡市食生活改善推進協議会
32		健康まつりにおける栄養相談	・栄養士による食生活相談コーナー ・食事バランスガイドの普及 ・骨密度測定に伴う栄養相談 ・各地区で実施する健康まつりにおいて、栄養士による食生活相談を実施		葵・駿河・清水区健康支援課
33		ヘルスアップ食事相談	生活習慣病予防に重点をおいた特定健診、特定保健指導		葵・駿河・清水区健康支援課
34	◎	食生活サポート講座	・テーマ別の講話 ・自分に合った食事量の確認 ・調理実習 ・試食		葵・駿河・清水区健康支援課
35		健康相談（随時）	電話、面接等での栄養相談		葵・駿河・清水区健康支援課
36		栄養成分表示促進事業	・栄養成分表示及び表示店募集のためのパンフレット作成、配布 ・栄養成分表示、栄養計算講習会の開催		食品衛生課
37		健康教室	肥満傾向の児童生徒を対象として希望者をつのり、栄養士による栄養指導、医師による医療相談、指導主事による運動指導を行う。		児童生徒支援課
38		しずおかアクティ部	栄養関連資料の配布、栄養相談		静岡県給食協会
39		栄養士研修会	栄養アセスメントについての講習会、事例研究発表		静岡県給食協会
40		調理師資質向上対策事業	各種研修を実施（生活習慣病予防の調理法、健康増進法、食文化、食品衛生等）		静岡県調理師会
41	◎	生活習慣病予防教室	減塩等生活習慣病予防のための料理教室		静岡市食生活改善推進協議会
42	◎	食の安全教室	小学校等での出前講座・食中毒、添加物などについての講話		食品衛生課
43		食の安心・安全に関するリスクコミュニケーション	食の安心・安全に関する講座やリスクコミュニケーションを開催		食品衛生課
44		給食施設研修事業	衛生講習会		食品衛生課
45		衛生講習会	栄養アセスメントについての講習会、事例研究発表		静岡県給食協会
46		見学研修会	見学研修会（食堂・厨房・調理器具の実演見学など）		静岡県給食協会

No.	重点事業	事業	事業内容	目標数値	担当課・団体
47		エシカル消費と家庭の食卓	エシカル消費と家庭の食事の関連について考える		しずおか市消費者協会
48		「食品衛生月間」街頭広報活動	青葉緑地、静岡駅コンコース等の市内4箇所において、参加者120名によりチラシ、パンフレット、うちわ、ノベルティなどを配布し、食中毒予防を呼びかける		静岡市食品衛生協会
49		「静岡食協ニュース」の編集・発行	・年4回(タブロイド版4項) 静岡市食品衛生協会機関紙として発行(5,860部) ・食関係の行政や日食協からの情報の伝達や提供		静岡市食品衛生協会
50		地域のお祭り等の「バザー等開催届」提出団体への消毒薬の提供	市民に調理や食品の提供に際して、手洗いがいかに重要であるかの認識を深めてもらう		静岡市食品衛生協会
51		歯つらつ健口講座	高齢者の集う地域などにおいて、口腔機能の維持向上についての講話と、歯っぴー☆スマイル体操の指導を行う		健康づくり推進課
52		夏休み親子「歯」の教室～ミュージアム探検隊～	飲み物Ph測定等の実習体験を通じ、歯科保健に対する正しい知識を普及する		健康づくり推進課
53		歯みがき巡回指導	希望する認定こども園、幼稚園、保育園に対し巡回指導を行う。また、フッ化物洗口の正しい知識を普及し、洗口実施を推進する。		健康づくり推進課
54		歯みがきスタート教室	8か月～1歳2か月頃の保護者を対象に、乳歯のむし歯予防や食べる機能に関する講話、グループワークを実施する。		健康づくり推進課
55		1歳6か月・3歳児健診における歯科指導	健康診査時における個別歯科相談		健康づくり推進課
56		乳幼児むし歯予防事業	未就学児を対象とした、歯科健診と歯科保健指導の実施		健康づくり推進課
57		フッ化物洗口法によるむし歯予防事業	永久歯の歯科強化とむし歯の半減を目指した「歯の健康づくり」を推進するため、就学前の4・5歳児を対象としたフッ化物洗口法を実施		健康づくり推進課
58	◎	歯周病検診	勤務先などで検診を受ける機会がない40歳以上の方を対象に歯周病検診を実施		健康づくり推進課
59		妊婦歯科健診	妊婦を対象とした歯科健康診査及び歯科保健指導の実施		子ども家庭課
60		歯と口の健康	幼児から高齢者まで年齢に合わせた講話		静岡市食生活改善推進協議会
61		おやこ食育教室	講話、紙芝居、エプロンシアター、調理体験		葵・駿河・清水区健康支援課
62		サマーキャンプ	子ども達で献立を計画し、2日間の野外活動を実践する予定		静岡市子ども会連合会
63	◎	楽しく子育て応援教室	絵本紹介や折り紙、紙芝居、おやつづくり、料理の紹介など、子どもと親と食生活改善推進員が楽しむ場の提供		静岡市食生活改善推進協議会

No.	重点事業	事業	事業内容	目標数値	担当課・団体
64	◎	食品ロス削減対策事業	ごみ減量啓発講座の開催、30・10（さんまる・いちまる）運動の推進等を通じて、食品ロス削減に対する意識向上を図り、ごみ減量を推進する		ごみ減量推進課
65		スマートクッキング	環境にやさしい料理教室		静岡市食生活改善推進協議会
66		静岡市認定農業者協会「春の市・秋の市・冬の市」	認定農業者による農畜産物の対面販売		静岡市認定農業者協会 農業政策課
67		産業フェアしずおか	地場産物や加工品の試食、販売、PR		農業政策課 水産漁港課 中山間地振興課
68		用宗漁港まつり	・水産物、加工品の試食、販売（生しらす、釜揚げしらす等） ・水産物を使った料理の販売（しらす丼） ・体験乗船 ・模擬せり など		水産漁港課 清水漁業協同組合
69	◎	地場産物を取り入れた献立の提供	県内産食材や地域の食文化を生かした献立を実施		学校給食課
70		地産地消活動（商店街・店頭販売）	地場産物の販売		静岡市農業協同組合
71		しずおか畜産まつり	・畜産物の販売、食体験 ・加工品づくり体験		静岡市農業協同組合
72		地元の海産物	・小学校での家庭科、課外実習及び学校給食への食材提供 ・地元の海産物・漁業・漁法の理解と「我がまち」の再確認や地元ブランド（しらす）の普及の目的も含む活動の実施		清水漁業協同組合
73	◎	しらすを食べる会	地元ブランド（しらす）の普及		清水漁業協同組合
74	◎	地産地消活動（商店街・店頭販売）	地場産物の販売		清水農業協同組合
75		アグリフェスタしみず	・農林水産業の紹介 ・農林水産物の展示販売・実演、体験		清水農業協同組合
76		清水港マグロまつり	台風等による影響を最小限にするため、年1回の開催を周年開催とする。 【メイン開催】 ・刺身マグロ無料試食 ・マグロの解体ショー 【サブ開催】 ・マグロ outlet ・中部自動車道沿線市町へのPR ・ポータルサイト開設		海洋文化都市政策課
77		アグリチャレンジパーク蒲原活用事業	・市民に対する農業啓発 ・市民対象の農業体験イベントの実施（野菜の苗植え、収穫等）		農業政策課
78		しずまえ漁業見学ツアー	小中学生と親を対象に、市内で行われる漁業（桜えび漁、しらす漁、定置網漁など）や競りの様子、水産加工工場の見学会を実施		水産漁港課
79		親子しいたけ種駒打ち教室	原木椎茸生産者の指導による親子の椎茸種駒打ち体験		中山間地振興課

No.	重点事業	事業	事業内容	目標数値	担当課・団体
80		親子食農体験「ソレイユくらぶ」	・小学生の親子を対象とした食農食育講座 ・農業体験、調理実習、施設見学		静岡市農業協同組合
81		出張加工品づくり教室	幼稚園、保育園、学校に「出向く授業」として、大豆、米等の農産物の加工全般について実施		静岡市農業協同組合
82		農業体験教育事業	親子（未就学児含む）、小中学校の児童生徒などを対象に農作物の栽培・収穫体験を実施		静岡市農業協同組合
83	◎	生消費言倶楽部	・生産者と消費者による農作業や加工品作りの実施 ・意見交換		静岡市農業協同組合
84		体験学習	野菜作りと収穫、田植えや稲刈り等		静岡市私立幼稚園連合会
85		タタミ干し作り体験と体験乗船	地元の海産物・漁業・漁法の理解と「我がまち」の再確認や地元ブランド（しらす）の普及の目的も含む活動の実施		清水漁業協同組合
86		出前講座	地域の小中学校、高等学校へ出向き、農業に係る授業、講座を実施		清水農業協同組合
87		農業体験教育事業	親子（未就学児含む）、小中学校の児童生徒などを対象に農作物の栽培、収穫体験を実施		清水農業協同組合
88		ライフステージに応じた各種食育推進講座	各種料理講座、各種食育講座等		生涯学習推進課
89	◎	食育応援団	食育に関する知識や経験を持っている個人、団体、企業を応援団として登録し、食育に取り組む市民から依頼によりその内容にあった応援団を紹介する		健康づくり推進課
90		都市山村交流センターの活用	・自然食作り（朴葉もち、味噌ほか） ・茶摘み体験 ・そば打ち ・野菜収穫体験		中山間地振興課
91		調理技術研修会	調理技術研修会（和食、魚調理の研修など）		静岡県給食協会
92		食文化・食育普及啓発	郷土料理や地元食材を調理する機会を充実し、普及啓発を行う		静岡県調理師協会
93		子育てトーク・おやつ教室	昼食、おやつづくり、餅つき、行事食等を指導		静岡市食生活改善推進協議会
94		じまんの「しょく」フェスタ	地元農産物を使った総菜と地域伝統食を味わうイベント		静岡市農業協同組合
95	◎	お茶の美味しい入れ方教室	小学5・6年生を対象とした、日本茶インストラクターによるお茶の美味しい入れ方と「お茶のまち静岡市」について学ぶ授業を実施		農業政策課
96		茶育・食茶の推進	お茶を飲むだけでなく、お茶の力（効能）、お茶料理等の紹介実施		静岡市食生活改善推進協議会
97		お茶育	幼稚園、保育園、学校でお茶の手摘みや製造調整作業の体験やお茶の入れ方教室、講習会を実施		静岡市農業協同組合
98		緑茶を飲もう	私立幼稚園が主催するイベント「子育てフェア」で緑茶を提供		静岡市私立幼稚園連合会

第4次静岡市食育推進計画

発行日 令和6年●月
編集・発行 静岡市 保健福祉長寿局 健康福祉部 健康づくり推進課
住所 〒420-8602
静岡市葵区追手町5番1号
TEL 054-221-1571
FAX 054-251-0035
